

すずむし

第 1 1 5 号

1978年12月

倉敷昆虫同好会

“すずむし”投稿規定

1. 報文の原稿は次のような体裁にする。

(イ) 用紙は400字詰横書原稿用紙を用いる。

(ロ) 記述は表題、著者名、現住所、本文、要約、文献の順序とする。

(ハ) 動植物の和名は片仮名で書き、学名は Papilio xuthus LINNE のように下線をひく。Data の記載は次のように略記する。

2♂, 1♀, Aug. 26, 1966 または, 2♂, 1♀, 26. VIII. 1966など。

(ニ) 読点は(. , : ; “ ”) などを用い、句読点および括弧は各一字にとる。

(ホ) 文献は本文に引用したものに限り、著者名のアルファベット順に並べて下記のような形式で記す。

大野正男 (1966) 広島県のハムシ相. すずむし16(1): 1-11.

MOTSCHULSKY, V (1859) Homopteres in insectes des Indes orientales, et de contrées analogues. Etud. Ent. 8: 25-118.

2. 報文は簡潔に記すこと。原稿は返却しない。

3. 別刷は著者の負担で調整できる。原稿1頁欄外に必要な部数を明記すること。

4. 原稿の送付は下記宛とする。

〒710 岡山県倉敷市幸町 重井病院内

倉敷昆虫同好会

すずむし

No. 115

Dec., 1978

岡山県のイシガケチョウについて

難波通孝

(〒709-08 岡山市東平島1595-87)

Cyrestis thyodamas mabella FRUHSTORFER, 1898 イシガケチョウについて今年の6月13日より10月14日にかけて継続的に観察出来たので報告しておきます。本種の県内における従来の記録は“すずむし”108号の「岡山県の蝶」に記載されている英田郡大原町、10. VI.'58と倉敷市児島味野がある。それ以後の報告としては渡辺昭彦氏の14. VII.'74, 1 ex., 倉敷市上東、富永栄作氏の26. VII.'75、県下で初の幼虫2頭を倉敷市六口島でイヌビワより観察、そして筆者も7. VIII.'75、同所においてイヌビワの葉裏より羽化後の蛹を確認。また、那須敏氏の14. X.'72, 1 ♀, 岡山市郡(原田採)、吉田嘉男氏の18. VII.'72, 3 exs., 岡山市郡(住屋清治採): 19. VII.'72, 2 exs. (吉田採) および中村具見氏の29. VIII.'77, 1 ♀, 川上郡備中町上布瀬の記録があるが、県下における発生についての報告は見当らない。筆者は倉敷市六口島において卵、および幼虫を多数確認したのをはじめ、倉敷市児島宇野津奥においては、7月1日より10月14日にかけて発生のくり返しと、野外における各ステージについて詳しく観察し得たので、これらをとりまとめ報告しておく。

本文に先だち、本種の個体変異についてご親切な助言をしていただいた、九州大学教授白水隆博士に厚くお礼申し上げます。また、調査に協力していただき、貴重な記録を心よく提供していただいた吉田嘉男、安井茂夫、喜多嶋鐵也、織田明文、丸山積の各氏には、紙上ながら深く感謝いたします。なお、提供していただいた記録には、そのあとに氏名を記した。

(1) 観察および採集のメモ

観察した期間に発生した回数と周年経過を推測するために、確認したことを日付順に列記しておく。また、確認出来なかった日についても、一部参考のために記した。

①倉敷市六口島 13. VI.'78, 午後2:00頃成虫1 ex. 目撃、卵15 exs., 若齢幼虫11 exs. 採集。

- ②倉敷市六口島 18. VI.'78, 若齡, 中齡幼虫17exs., および8 exs. (喜多嶋), 8 exs. (安井) 採集, 成虫1 ex. 目撃.
- ③岡山市広谷 26. VI.'78, 終齡幼虫2 exs. 採集. 27. VI.'78, 終齡幼虫3 exs. 採集.
- ④倉敷市児島宇野津奥 (以下宇野津奥) 1. VII.'78, 蛹2 exs. 採集. その内1 ex. は発見時に前蛹で午後2:00頃蛹化した.
- ⑤岡山市広谷 3. VII.'78, 蛹1 ex. 確認.
- ⑥倉敷市六口島 14. VII.'78, 食痕さえ確認出来なかった.
- ⑦宇野津奥 12. VII.'78, 蛹2 exs. 採集. その内1 ex. は当日蛹化したらしく, まだ少し軟かった.
- ⑧倉敷市六口島 14. VII.'78, 確認出来ず.
- ⑨倉敷市児島稗田町御前道 (以下御前道) 14. VII.'78, 蛹殻5 exs. 確認 (吉田), 卵10 exs., 若齡幼虫2 exs., 成虫1 ♀目撃.
- ⑩御前道 16. VIII.'78, 1 ♀採集, 午前11:30~11:50分の間に5卵産卵を確認, 卵15 exs. 採集.
- ⑪宇野津奥 2. IX.'78, 若齡幼虫4 exs. および, 蛹2 exs. 確認, その内1 ex. は蛹殻も軟く当日蛹化したものと思われる.
- ⑫御前道 2. IX.'78, 確認出来ず.
- ⑬宇野津奥 4. IX.'78, 2日に確認していた幼虫4 exs. の内2 exs. しか見い出せなかった. 2 exs. 採集. 蛹2 exs. の内1 ex. 採集. もう1 ex. は野外の羽化観察に残した.
- ⑭宇野津奥 7. IX.'78, 中齡幼虫1 ex. 採集.
- ⑮宇野津奥 8. IX.'78, 午後1:00~1:30分の間に2 ♀を目撃した. 卵3 exs. 確認.
- ⑯宇野津奥 9. IX.'78, 正午12:00~12:20分の間に1 ♀を目撃し, 10数卵の産卵を観察した.
- ⑰御前道 9. IX.'78, 卵2 exs. 確認.
- ⑱宇野津奥 10. IX.'78, 今月2日に確認していた当日蛹化したと思われる蛹より午前9時8分が羽化した. 午前11時頃まで葉裏にいたので採集. また, 同日午前11時15分頃産卵していた1 ♀を目撃し, 産卵されていた卵3 exs. を確認した (吉田).
- ⑲宇野津奥 14. IX.'78, 卵20 exs. を確認, 若齡幼虫4 exs. も確認し, その内3 exs. を採集した. 飼育 (織田, 丸山), また, 成虫も3 ♀採集する. 2 ♀ (織田), 1 ♀ (丸山).
- ⑳宇野津奥 16. IX.'78, 産卵中の1 ♀を確認する. (織田).
- ㉑宇野津奥 17. IX.'78, 卵7 exs., 若齡幼虫15 exs. 採集. 飼育 (吉田). 成虫1 ♀目撃.
- ㉒御前道 17. IX.'78, 卵3 exs., 若齡幼虫, 5 exs., 中齡幼虫1 ex. 採集.
- ㉓宇野津奥 21. IX.'78, 若齡幼虫3 exs., 4齡幼虫1 ex. 採集. 飼育 (織田, 丸山). また, 成虫4 ♀を目撃し, この内2 ♀が正午~午後1時にかけて少し離れた別々の所に産卵した.
- ㉔御前道 21. IX.'78, 若齡幼虫2 exs. 採集.
- ㉕宇野津奥 23. IX.'78, 1 ♀の産卵を確認. この個体は9月21日のものとは異なり, 完

全品であった。12時30分～12時45分にかけて、10数卵を産卵し、その後道路に飛び出し、車と激突し死亡した。(織田)所蔵。

②⑥宇野津奥 30. IX.'78, 卵 1 ex. 若齢幼虫 2 exs. 採集。

②⑦宇野津奥 4. X.'78, 若齢幼虫 2 exs., 4 齢幼虫 1 ex. 採集。

②⑧宇野津奥 14. X.'78, 午前11時30分から正午にかけて1♂の吸水を確認した。

(2) 生息地の状況 (写真①)

継続発生の確認が出来た御前道と宇野津奥は、その間を南北に鷲羽山スカイラインが通り、東の谷が御前道、西の谷が宇野津奥である。宇野津奥は水島コンビナートが西目前に広がっている。しかし、北に284.8mの鴨ヶ辻山と南に220.6mの石鉄山があり、この地域としてはかなり深い谷を形成している。この2つの産地は東と西に分かれているが、直線で1.5km～2kmしか離れておらず、環境も近いことから同一地域内と言える。幼生期の確認される場所として共通なことは、食樹のイヌビワが林縁にあり、日光が少し当るか、あるいは当らないイヌビワに多く、必ず新芽がある。そしてすぐ下には幅1m前後の小川が流れている。林縁以外で日当りの良い場所での産卵が確認出来たのは、暑さの峠も越えた9月9日以降である。しかし、この場所でも下には小川が流れていた。すぐ近くには、民家と舗装された児島稗田と水島を結ぶ道路があり、交通量はかなり多い。

(3) 各ステージの観察メモ

(1)に記した通りかなりのステージを野外で観察することができた。これらを各ステージごとにとりまとめ記しておく。飼育上での観察については(飼育)と記した。それ以外は全て野外メモである。

①産卵行動について (写真②)

16. VIII.'78, 御前道にて午前11:30～11:50; 9. IX.'78, 宇野津奥にて12:00～12:20; 21. IX.'78, 宇野津奥にて12:00～1:00; 23. IX.'78, 宇野津奥にて12:30～12:45の観察があり、正午前後に集中している。母蝶は産卵時間帯がくもりの時は現われず、産卵時は少なくとも晴、あるいは晴れたり曇ったり、もしくはうす日が差していた。付近の雑木林(竹が多い)よりどこともなく現われ、小川に沿って自生しているイヌビワに舞い降り、落ち着きがなく1卵ずつ産卵をする。母蝶は新芽のみに産卵し(極めて稀に新芽以外に産卵した。2例)不規則な飛び方をし、付近のイヌビワに新芽を求め、葉上に止ると少し歩行し都合の良い産卵姿勢に移り、数秒で1卵を産み終るとすぐ飛び立ち、引き続き産卵したり、葉上に翅を開げて小休止することもある。観察のため近づくと葉裏に翅を開けたまま静止し、かなりの時間飛び立たない。また、葉上、葉裏において翅の開閉をすることもあり、葉上に翅を閉じたまま静止することもある。産卵位置は新芽葉表が最も多いが、葉裏も珍しくない。その他の部位は観察されなかった。産卵時はきまって翅は半開である。

産卵の途中葉裏に静止した個体を付近の雑草で直接刺激して見たところ、少し動くのみでなかなか飛び去らなかった。引き続き刺激していたところ、突然、翅を閉じたまま真下に30cm位落下し飛び去り、次の産卵に移った。時間が来ると直接付近の雑木林には直行せ

ず、不規則な飛び方をして少しの間回り道しながら、林縁雑木の葉上（少し高い所）にとまり、翅を広げ小休止することが多い。そのうち竹の多い雑木林（竹林を主としたアバマキ、常緑樹、林縁にはタラノキ等）に姿を消す。

②卵について（写真③）

産卵された卵の中で、黒色に変化して孵化しないものを多く見かけた。卵は3日～4日経過後（飼育）孵化し、卵殻は食さない。

③幼虫について（写真④）

1 齢幼虫は新芽の先端より食し中脈を残し、これに静止していることが多い。2 齢、3 齢においては、新芽中脈をえぐるように食し、中脈を少し残すこともあるが、ほとんどは残さない。体色は茶色であり、葉裏か葉上にいることが多く、葉裏中脈に1～3ヶ所、時には5～6ヶ所のかみ傷を残す。この位置は、葉の先端から基部の中間付近に多く、幼虫が大きい程基部に近くその数も減少する。また、体色が茶色のためか苞近くに静止していることも多い。4 齢も後期になるとほとんど葉上に静止し、終齢にいたっては常時葉上にいる。新芽よりむしろ堅い葉を好み、先端より食し、ほとんどの場合中脈も残さない。終齢になると若齢と異り、葉裏中脈のかみ傷は葉の基部裏面を通常1ヶ所深く傷つける。このためその多くは、幼虫のとまった葉は垂れ下がり、顕著な場合幼虫は垂直となる。食し方としては、葉上先端より食し、休む時は葉の基部に頭を向けて尾部を斜めに上げた姿勢をとる。これを定期的に繰り返し（飼育）、葉の残りが1～2cmになると他の葉に移動する。（野外でも基部まで食さず必ず少し残している）。幼虫はかなり神経質で、食しているところ、頭部を数回刺激したところ、ただちに食するのを止め、しばらくすると他の葉に移り、その後再びもとの葉に戻り食していた。また、少しの振動、音に対しても敏感に反応し、食するのを止めた（飼育）。幼虫期は推定15日前後であり（飼育、吉田）、10月においては20日におよんだ（飼育）。

④前蛹から蛹について（写真⑤、⑥）

幼虫は例外なく葉裏にぶらさがり垂蛹となり、そのほとんどが中脈の中心付近を選んでいく。蛹殻も含め野外11例を見ると、幼虫が食した葉裏には蛹とならず、他の完全な形をしている近くの葉裏より見つかる。このため蛹になる時あまり長くは歩かないものと思われる。蛹は触れると激しく左右に体を動かし体色は褐色、まれに淡緑色があり、10月に入ってから褐色の濃いものもあった。蛹化の野外における観察は1例で1. VII.'78、宇野津奥にて午後2:00頃蛹化した。蛹化直前は近寄って見ると体が太くなったり細くなったり（目立つほどではない）波打っており蛹化間近を思わせた。脱皮後は体を左右に激しくゆすり脱皮殻を振りおとした。蛹期は野外の9日が1例あり、その他は館育で夏期においては7日～9日、そして10月下旬に羽化したものは、雌の場合13日におよんだ。（室内）。

⑤羽化について（写真⑦）

野外における観察は1例で10. IX.'78、宇野津奥にて午前9:08分が羽化した。見る見るうちに翅がのび、蛹殻にぶらさがっていたが、約1時間位して葉裏に移った。風が強かったためであろう（吉田）。また、5. X.'78の羽化例によると蛹が割れはじめて1分30秒で蛹より翅が出て、2分経過して抜殻にぶらさがり、3分経過して翅の $\frac{1}{2}$ が伸び、

羽化後15分経過するとほぼ伸び切り、成虫は羽化後より頭部を左右に小さく常に動かしていた。翅は約20秒おきに少し開いたり閉じたりしている。羽化後30～40分経過すると翅はかなり乾いたのか閉じたままとなり、頭部も左右に動かさず静止が続いた。1時間経過したがまだ水平に飛ぶことはできなかった。1時間30分経過すると水平に飛び2時間30分経過すると少しは力強く飛んだ。(飼育)。

⑥訪花と吸水について (写真⑧)

訪花については、8. IX.'78, 宇野津奥にて、タラノキに訪れている1♀を確認した。また、吸水については、14. X.'78, 宇野津奥にて、午前11時30分から正午にかけて1♂の吸水を観察している。午前11時20分頃発生地のイヌビワ周辺を飛んでいた1♂を追跡したところ、付近の民家と民家の間を、地上50cm位の高さで不規則に飛び、途中幾度も地上にとまる。しかし、非常に敏感で、少し近寄るとすぐに飛び立ってしまう。コスモス(桃色)に訪花したが、吸蜜したかどうかは確認できなかった。そして池の上にさしかかると、急に舞い降り、池の辺で吸水行動に移った。翅を広げて吸水するが、時折体の方向を変えたり、翅を半開にしたりする。翅を広げ吸水している時、静かに近寄れば、かなり鈍感であった。

(4) 天敵について

天敵について、直接捕食されているところの観察はしていないが、産卵されている卵の数と若齢幼虫、また、若齢から終齢幼虫の食痕と、確認される幼虫の数の比較からしてあまりに差があるため、イヌビワの周辺で天敵として予測されるものを列記してみると、ハラビロカマキリ、ジョロウグモ等のクモ類、ツユムシの類、ハチの類そして日当りの良い所にはスズメが多い。また、野外で採集した幼虫および蛹が寄生されているケースは66頭中全く確認出来なかった。ただ1例3. VII.'78, 岡山市広谷で確認した蛹は自然状態で放置していたが、ついに羽化に至らなかった。調べて見たが中はすっかり乾いており、自然死か寄生か、判別がつかなかった。

(5) 個体変異について

本種の個体変異については、夏型と秋型、そして雄と雌との区別には特に注意を要するが、引用文献8) 10) 11) 12) によると次のようになる。夏型雄では、前翅表先端の黒斑は強く発達し地色はつねに白色。雌の前翅表先端の黒斑は弱い場合が普通である。しかし、まれに雄と同様これが出現することもある。地色は白色または淡褐色の2型がある。そして秋型雄では、前翅表先端の黒斑は薄く、地色は白色であり、雌においてはやはり黒斑は薄く、地色は白色、あるいはすべてクリーム色と記載が分れる。以上のことから、雄雌が一見して判別出来得るのは地色が淡褐色の場合雌ということだけである。そして、地色が白色の場合の雄雌の判別には前脚または腹端を精査する必要、とある。これらに飼育で得た上記の中のない型①—(ロ)および④—(イ)を加えた。また、秋型雄の前翅表先端の黒斑は薄くなるとあるが、このような個体は見られず、夏型と同じかあるいは少し濃いものばかりであった。飼育と野外において得た50♂36♀を比較してみたところ次のようであった。

なお、雄雌の区別は前脚の先端を精査している。そして夏型と秋型については、あとに分類している①-(イ)と③の(イ)、②-(ロ)と④-(ロ)および②-(ハ)と④-(ハ)のように前翅表先端の黒斑の強弱と地色の色彩について全く区別が出来ないこととなった。川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑、保育社。および白水隆(1975)学研中高生図鑑、昆虫1チョウ、学習研究社には、その区別について詳しくふれていない。そして藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑、講談社には屋久島以北と奄美以南を亜種として区別し、屋久島以北では越冬する秋型と夏型の差が明瞭。夏型では♀の地色は黄色となり、♂では後翅外縁に沿う灰色の斑紋が発達する。秋型は♀の地色が白色となり、♂の外縁に沿う灰色の斑紋は縮少し、色彩も薄くなる。と記されている。しかし、次に比較している通り、夏型♀の地色に白色が混じり、秋型♀の地色は黄が多く、夏と秋の♂における後翅外縁に沿う灰色の斑紋についても、夏型の中に秋型のように少し薄い個体も混じており、その濃淡の差もわずかであった。このように実際には明瞭に区別することが困難となったため、夏型と秋型については、上記文献を参考にしながら、調査の出来た宇野津奥での最終羽化と思われる個体を雄雌とも秋型とした(9月28日以降は卵の発見がされず、次の発生が認められなかったためである)。これは宇野津奥で9月14日～10月4日にかけて採集した幼虫より得た個体で、9月28日～10月29日にかけて羽化した38個体と野外観察の1♂である(表1を参照)。

- ①(イ)夏型♂、前翅表先端の黒斑強く地色白28♂(写真⑨)
- (ロ)夏型♂、前翅表先端の黒斑弱く地色淡褐色1♂(写真⑩)
- ②(イ)夏型♀、前翅表先端の黒斑弱く地色白4♀(写真⑪)
- (ロ)夏型♀、前翅表先端の黒斑弱く地色淡褐色10♀(写真⑫)
- (ハ)夏型♀、前翅表先端の黒斑強く地色白4♀(写真⑬)
- ③(イ)秋型♂、前翅表先端の黒斑強く地色白21♂(写真⑭)
- ④(イ)秋型♀、前翅表先端の黒斑弱く地色白3♀(写真⑮)
- (ロ)秋型♀、前翅表先端の黒斑弱く地色淡褐色14♀(写真⑯)
- (ハ)秋型♀、前翅表先端の黒斑強く地色白1♀(写真⑰)

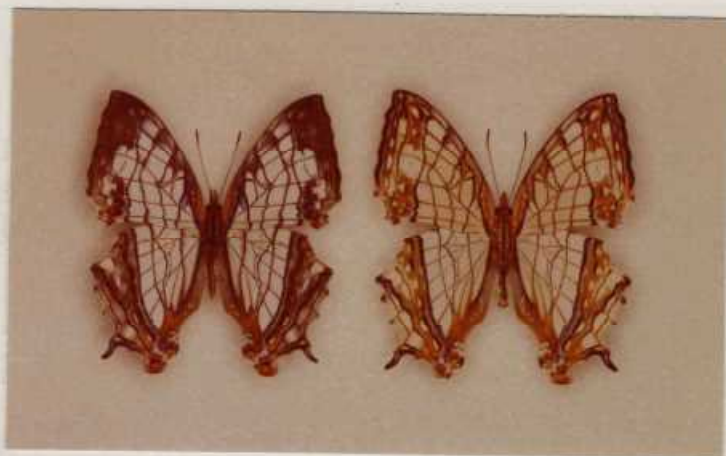
以上のようになり、この中特に興味のあるものに①-(ロ)がある。夏型雄の雌型で前翅表先端の黒斑は弱く、地色も夏型雌と全く変らない淡褐色である1個体が確認された(前脚および腹端の形状を精査している)。また、夏型雌の地色における白と淡褐色も中間があり、まれに出現する夏型雌の前翅表先端の黒斑が強い個体とほとんど現われない個体との中間がある。これらを敢えて区分したのが①～④である。①の(ロ)については時に九州大学の白水隆博士より次のような助言を得た。それによると、(イ)日本内地産の本種については、これまで多数の標本を見てきたし、採卵飼育も数回行い、数10頭を得ているが、♂の地色はずべて白色で、このような黄色の地色の個体は未だ見た事はない。②また、先年から2回にわたり、沖縄本島の本種を採卵飼育(各温度区、日長区を区別して)し、数10頭を得ているが、この材料でも、大体同じであった。但し、20℃、9時間日長で育てたものは、♂♀の地色がやや淡黄色を帯び、♂♀の地色の差はほとんどなかった。

そして、この地色の問題はかなり難しいが、♂でこのような地色が黄色の個体は例がない。と以上のような助言を得たので、参考までにカラープリントをつけておいた。上記比

較86個体は吉田氏の38個体と野外観察1個体を含む。

左の個体は6月30日飼育羽化した六口島産で普通の夏型♂

右の個体が前記①一口の夏型♂
8月12日野外で蛹を採集し8月18日羽化した宇野津奥産(写真10)



(6) 発生回数の推則

(1)の観察および採集のメモ①~⑳を中心とし、それに飼育記録を参考として、県内における発生回数を推則して見た。まず最初の確認が、6月13日の六口島においてであり、最後の確認は、宇野津奥の10月14日である。この間の野外記録である(1)の①~⑳と、飼育記録をわかりやすくまとめたのが表①である。飼育上羽化する時期と野外で成虫が確認される時期にかなりのずれが生じるが、これは主に野外と飼育における幼虫期の差と思われる。これは蛹期について野外と飼育にほとんど差のないためである。

まず、この表①により、継続的に観察の出来た宇野津奥について考えて見ることとする。最初に確認したのは7月1日の前蛹および蛹であるが、このことからして同所に6月中旬頃成虫がいたことは確実であり、また、野外の蛹期は9日(1例9月に観察している)前後であろうから7月中旬頃成虫がいることとなる。次に確認したのは、8月12日の蛹2 exs.である。この内1 ex.は当日蛹化である。この個体は7月中旬の成虫における継続と考えて時期も合う。また、この蛹は8月19日に羽化し(屋内)、野外においても少しずれはあるが、8月14日と16日に成虫を観察している。そして9月2日に蛹2 exs.を確認し(この内1 ex.は屋内で9月7日♂が羽化し、他の1 ex.は当日蛹化して、そのまま野外に放置していたところ、9月10日♂が羽化した。これらも9月8日~23日にかけて、成虫およびその他のステージを数多く確認した時期と一致する。そしてこの9月中旬を中心として産卵された卵より羽化したのが、飼育においては9月28日~10月5日にかけて早くも羽化した(吉田)。しかし、10月に入ってから下旬まで数回の観察にもかかわらず、産卵されているものが確認出来ず、10月14日に1♂を見たのみである。これにより野外では10月以降羽化したものが最終羽化で、♀はそのまま越冬個体となるものと思われる。以上により一番早い生息の確認が出来たのは、宇野津奥において6月中旬頃である。これは六口島で観察した、6月13日および6月18日と一致する。この6月中旬の個体が当地で今年発生したものか、他の地方から飛来したものか、あるいは当地にて前年より越冬したものかは、推測

表①

	'78. 野外データ	'78. 飼育データ
6月 中旬 下旬	13日, 六口島, 成虫①, 卵⑬, 若齢① 18日, 六口島, 成虫①, 中齢③ 26日, 広谷, 終齢② 27日, 広谷, 終齢③	6月28日～7月6日にかけて羽化した。 →7月4日羽化1♂ →7月5日羽化2♂
7月 中旬 下旬	1日, 宇野津奥, 前蛹①, 蛹① 3日, 広谷, 蛹① 14日, 六口島, 確認出来ず	→7月6日羽化♂, 7月8日羽化♀ →羽化せず。
8月 中旬 下旬	12日, 宇野津奥, 蛹②この内①当日蛹化 14日, 六口島, 確認出来ず 14日, 御前道, 成虫①♀, 卵⑩, 若齢②, 中齢①, 蛹殻⑤ 16日, 御前道, 成虫①♀, 卵⑮	→8月18日羽化♂, 8月19日羽化♂
9月 中旬 下旬	2日, 宇野津奥, 若齢④, 蛹②この内①当日蛹化 7日, 宇野津奥, 中齢① 8日から23日にかけて連続的に計⑥回♀の産卵を観察し, ♀の目撃延回数, 産卵の♀も含め⑭回におよんだ。又, この間に野外の羽化①♂, 卵延⑦, 若齢延②, 4齢①を確認した。以上すべて宇野津奥	→9月7日羽化♂, 当日蛹化の蛹は野外で9月10日羽化♂。 9月14日と17日に採集した若齢からは9月30日～10月5日にかけて羽化した。
10月 中旬 下旬	30日, 宇野津奥, 卵①, 若齢② 4日, 宇野津奥, 若齢②, 4齢① 14日, 宇野津奥, 成虫①♂, 吸水を確認	→10月26日と10月27日に♀が羽化した。 →10月20日～10月29日にかけて2♂1♀が羽化した。

する材料がない。ただ観察した範囲内では6月中旬, 7月中旬, 8月中旬, そして9月と10月である。9月は8日から23日にわたり, かなり長い期間産卵されたためであろうか, それより生ずる個体は前に記した通り, 9月28日～10月5日にかけて羽化(飼育), 次いで10月14日の♂(野外), そして10月20日～29日(飼育)におよんだ。野外の場合はまだ遅れ, 11月上旬羽化する個体もあると思われる。6月中旬にいた個体の扱いにより発生回数は異なるが, ①当地の1化とすれば年5化, ②他の地方より飛来または当地での越冬個体とすれば年4化という結果となる。参考までに原色日本蝶類図鑑(1976), 保育社による

と本州では3～4回、5月下旬より姿を見せる。とあり、原色日本昆虫生態図鑑、Ⅲチウ編(1972)、保育社には本州のデータがなく、九州では5月～10月にわたって年4～5化とある。また、日本産蝶類大図鑑(1975)、講談社によると、1化は本州や四国南部などで6月上旬とある。このことから岡山県においては上記②の年4化はほぼ確実である。また、6月上旬にいた個体は、その母蝶が飛来して来たのか当地に土着していたものかは全くわからないが、第1化の可能性も充分あると思われる。この場合は九州と同じく年5化となるが、これについては今後特に、6月以前の観察データを必要とする。また、これら宇野津奥以外の六口島および広谷については、六口島でも6月中旬に確認出来たものの、7月14日および8月14日においては丁度成虫の発生期と思われるが、幼虫の食痕さえも全く認めることが出来なかった。このことから、今年の六口島では一時的な発生であったのかもしれない。次に広谷であるが、前2つの産地よりかなり離れている。6月下旬終齢の確認により、6月上、中旬に成虫がいたことは明らかで、この終齢より7月上旬3♂が羽化したため、野外では6月上、中旬と7月上、中旬の2回が推測される。しかしその後の調査では全く認められなかったため、6月中旬産卵した雌は他の地方より飛来し、一時的な発生であったと思われる。また、いままでに報告されているデータについては最初に記している通りであるが、上記と照らし合わせて見ると、成虫については、6月中旬1 ex.、7月中旬には延6 exs.、8月下旬1 ex.、そして10月中旬に越冬する個体と思われる1♀の記録があり、大体今年のデータと一致している。幼虫における最初のデータである富永氏の幼虫2頭についても7月下旬中齢で発見されており、これより羽化する個体は8月中旬と推測され、これも一致している。

お わ り に

今年のイシガケチョウについては、例年にない暑さが7月～9月にかけて続いたためかどうかはわからないが、かなりの発生も確認され、発生回数について大体の把握ができた。この発生が以前よりなされていたものか、あるいは一時的なものか、それとも越冬し土着するかは、今後の課題であり、興味あるところである。しかし、今これを推測するとしても、いままでの記録はあまりにも乏しく、この1年のみの資料でもまだ少ない。今後の継続された観察に期待したい。また、個体変異については、敢えて区分してみたが、文献にも色々記載されているように、これを明確に区分することは困難なように思われた。幼虫の習性で、葉裏中脈のかみ傷について非常に興味をもった。来年引続き発生をし、多数の幼虫が得られれば、その意味について考えて見たいと思う。

引 用 文 献

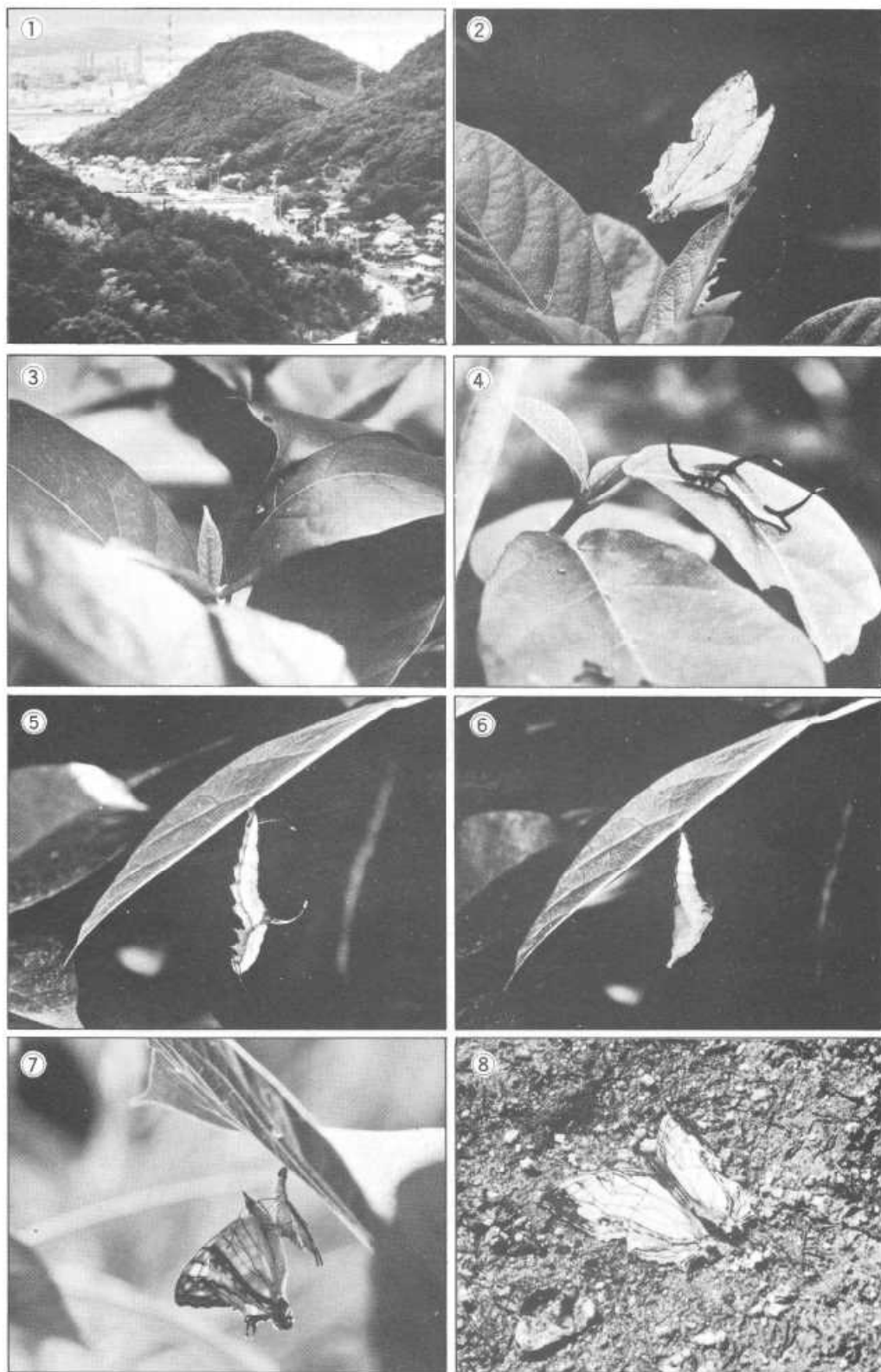
- (1) 倉敷昆虫同好会(1972). 岡山県の蝶, すずむし, 第108号.
- (2) 渡辺昭彦(1975). 倉敷市内でのイシガケチョウの記録, すずむし, 第111号.
- (3) 富永栄作(1975). イシガケチョウの幼虫を倉敷市六口島にて観察, すずむし, 第112号.

- (4) 難波通孝 (1975). 岡山県産蝶類の生態に関する知見. すずむし, 第112号.
- (5) 那須 敏 (1976). イシガケチョウの1記録例. すずむし, 第113号.
- (6) 吉田嘉男 (1976). イシガケチョウを金甲山で採集. すずむし, 第113号.
- (7) 中村具見 (1977). イシガケチョウを備中町で採集. すずむし, 第114号.
- (8) 川副昭人・若林守男 (1976). 原色日本蝶類図鑑, 保育社.
- (9) 福田晴夫ほか (1972). 原色日本昆虫生態図鑑, III チョウ編, 保育社.
- (10) 白水 隆 (1975). 学研中高生図鑑, 昆虫I チョウ, 学習研究社.
- (11) 藤岡知夫 (1975). 日本産蝶類大図鑑, 講談社.
- (12) 藤岡知夫 (1972). 図説日本の蝶, ニューサイエンス社.

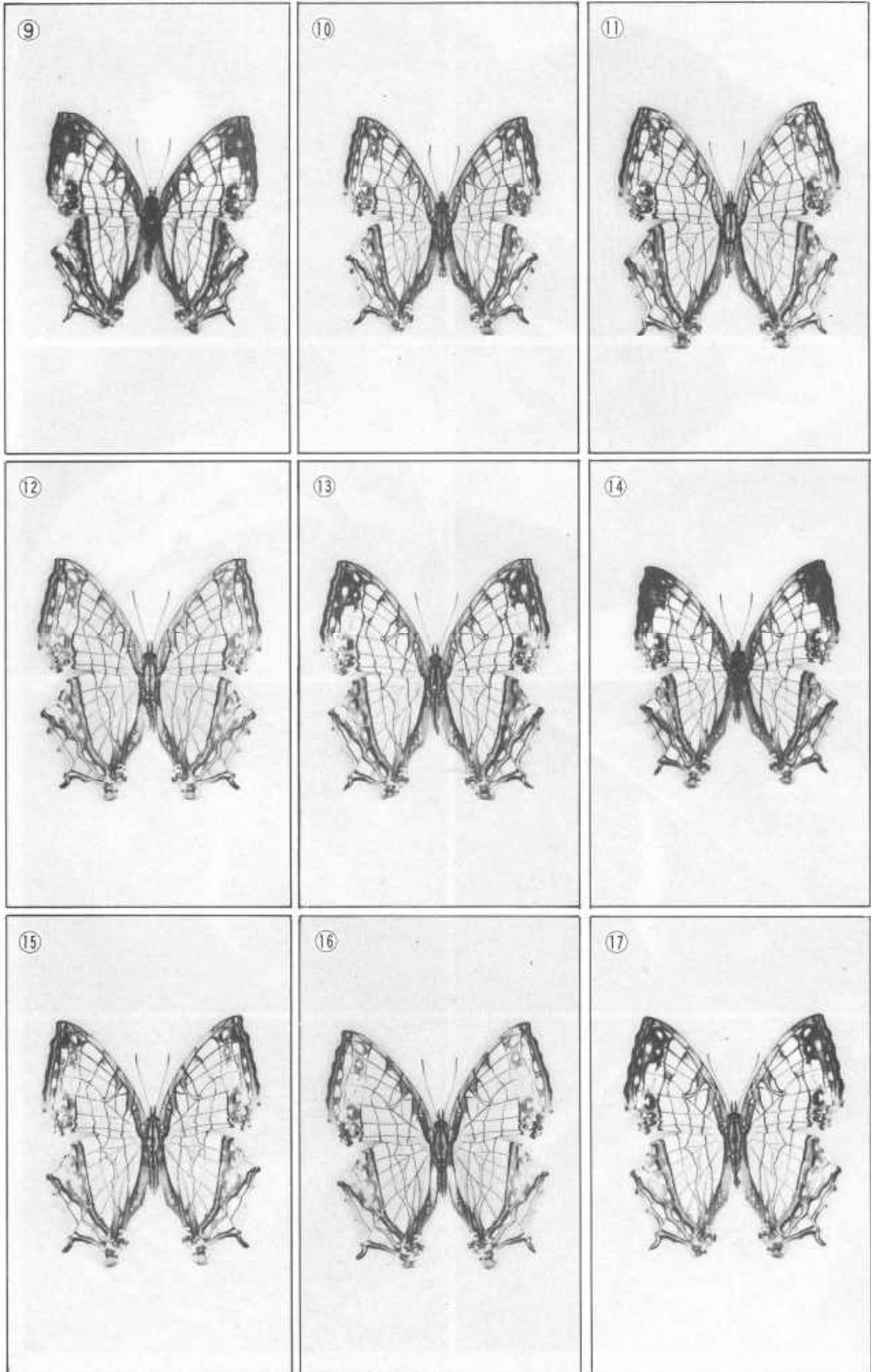
図版説明 (撮影はすべて1978年で自然状態)

- ① 9月30日 生息地である宇野津奥, 水島コンビナートが見える. この日も若齢幼虫と卵が確認出来た.
- ② 9月9日 宇野津奥で産卵中の雌. 12時10分頃.
- ③ 6月13日 六口島で観察した卵. 中央の新芽に1卵産んでいる.
- ④ 6月18日 六口島で地上50cm位の所にいた, 終齢幼虫になってあまり間もない幼虫で, 手前の葉上に脱皮殻が見える.
- ⑤ 7月1日 宇野津奥で観察した前蛹で1時30分頃.
- ⑥ 7月1日 ⑤と同じ個体. 午後2時頃蛹化した直後でまだ蛹の形を整えていないが, 数分後にはほぼ蛹の形になった.
- ⑦ 9月10日 宇野津奥で午前9時30分頃でやっと翅がのびた状態. 前後翅とも黒色部の弱い雄であった.
- ⑧ 10月14日 宇野津奥で午前11時50分頃観察した雄の吸水.
- ⑨ 6月28日羽化 (飼育). 六口島産で, 夏型雄の黒色部が発達している個体.
- ⑩ 8月12日に蛹を採集し, 8月18日に羽化した宇野津奥産の個体. 夏型の雄で翅の地色は淡褐色で黒色部の発達も弱く, 翅を見る限り淡褐色型の雌と全く区別出来ない. (カラープリントを参照).
- ⑪ 7月3日羽化 (飼育). 六口島産で, 夏型雌. 地色は白色で黒色部の発達は弱い.
- ⑫ 7月1日に野外で蛹化した蛹を採集し, 7月8日羽化した宇野津奥産の雌で, 黒色部の発達はほとんどなく, 地色は淡褐色で, その度合は各個体の中でも強い.
- ⑬ 7月1日羽化 (飼育). 六口島産で, 夏型雌. 地色は白色で黒色部の発達は強い.
- ⑭ 10月27日羽化 (飼育). 宇野津奥産の秋型雄で地色は白色, 黒色部の発達は強いが, 夏型に比べ後翅外縁に沿う灰色の斑紋は少し淡い.
- ⑮ 10月27日羽化 (飼育). 宇野津奥産の秋型雌. 地色は白色で黒色部の発達は弱い.
- ⑯ 10月26日羽化 (飼育). 宇野津奥産の秋型雌. 地色は淡褐色でその度合は強い, 黒色部の発達は⑫の個体よりまだ弱い.
- ⑰ 10月1日羽化 (飼育, 吉田). 宇野津奥産の秋型雌. 地色は白色で黒色部の発達は強い.

すずむし、第115号図版1



(①~⑥, ⑧ M. NANBA Photo)
 (⑦ Y. YOSHIDA Photo)



久米南町でナガサキアゲハ

Papilio memnon thunbergii von SIEBOLD, 1824 ナガサキアゲハは最近県南においてよく見かけるようになったが、県中部の報告はあまりないので報告しておく。

6. IX.'78, 久米郡久米南町山ノ城県立誕生寺養護学校内, 1♀, 目撃.

筆者は約5分間追跡しており、本種の♀であることを確認した。(尾塔順三)

鳥取県のカミキリムシ数種

山 地 治 (〒700 岡山市幸町9-9)

鳥取県において記録の少ない以下の種類を採集しているので報告します。なお、那須敏氏より貴重な記録の提供をいただきましたことを感謝します。

1. *Evodinus bifasciatus japonicus* MATSUSHITA フタスジカタピロハナカミキリ
八頭郡柘原, 1♂2♀, 13. V. 1978, 山地採. 辰巳峠への登りにかかる山手の斜面に2輪だけ咲いていたヤマシャクヤク花上で採集した。山奥とは言え一日に何台も車の通る埃だらけの道から10mと離れていない所で発見したことは驚きであった。
2. *Anoplodera azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ミヤマルリハナカミキリ
八頭郡柘原, 1♂, 30. IV. 1978, 那須採, ナシの花上。
3. *Eustrangalis distenoides* BATES カエデノクロスジハナカミキリ
八頭郡柘原, 11♂, 30. IV. 1978, 那須採. 前種と共にナシ花上で得られたがこのような早い時期に多数得られたことは珍しい。
4. *Judolia japonica* (TAMANUKI) ヤマトキモンハナカミキリ
大山大平原, 1♂1♀, 9. VII. 1977, 那須・山地採. クリの花上。
5. *Monochamus saltuarius* (GEBLER) カラフトヒゲナガカミキリ
大山柘水原, 1♂, 9. VI. 1973, 山地採. アカマツ伐採枝の叩網。
6. *Olenecamptus clarus* PASCOE ムネホシシロカミキリ
八頭郡河津原, 1 ex., 15. VII. 1971, 山地採. 高さ1mほどのワクを叩網して得た。なお、当地では道に沿って10数本のワクの木が認められる。

ケブカマルクビカミキリの越冬態について

分島 徹 人 (〒704 岡山市大安寺1-44-4)

山 地 治 (〒700 岡山市幸町9-9)

ケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* HAYASHI は、岡山県においては3～5月および9～12月にネズミサシの叩網により採集されている。本種の幼生期については黒田祐一氏の研究があり春交尾後産卵され、その年の秋成虫となり羽化脱出することが判明した。脱出した成虫はしばらく活動し、そのまま越冬に入り翌春再び活動すると推測されていたが、今回越冬中の成虫を観察する事が出来たので報告する。

2 exs., 29. I. 1978, 岡山市吉宗.

南向きの日当りの良い斜面に生えた高さ約5mの2本のネズミサシの樹皮を指ではいでいたところ、幹の北側地上約50cmともう1本の木の幹の南側約20cmの位置で樹皮のすき間に潜り込んでいた本種2個体を発見した(写真1, 2)。採集した個体はネズミサシの枝と共にプラスチックケースに入れておいたところ、気温が高い時は動きまわり、夜間蛍光灯を近づけると、良く飛んだ。室内でそのままにしておいたところ、自然状態と異なっていたためか、それぞれ2月23日と3月10日に死亡した。



キボシチビカミキリの記録

岡山市野谷において出雲善浩・渡辺昭彦両氏と共に採取したアカマツ枯枝よりキボシチビカミキリ *Sybra flavomaculata* BREUNING が羽化脱出したので、岡山市高松に次ぐ新産地と食樹の記録として報告する。

26. II. 1978, 岡山市野谷においてアカマツ枯枝採取.

20. V. ~30. VI. 1978, 11 exs. 羽化脱出.

採取した枯枝はアカマツの幹から直接出ている直径1～2cmの枯枝で、古くなり内部の軟らかくなった枝にまで食入っていた。(山地 治)

岡山県産蝶類に関する知見

難波通孝

(〒709-08 岡山市東平島1595-87)

県内産蝶類36種について、1976年8月から1978年10月にかけて確認した生態と分布に関する資料を報告しておきます。

この報文を發表するにあたり、貴重な資料を心よく提供していただいた、石井貞志、安井茂夫、吉田嘉男、織田明文、岸清己、岸洋司の各氏には心よりお礼申し上げます。

また、カラスシジミの食樹であるハルニレ、オヒョウについて親切なご教示をしていただいた、難波早苗、中村具見の両氏と、食樹の同定に労をわずらわした光畑之彦氏には深く感謝いたします。なお、提供していただいたデータについては、そのあとに氏名を記した。

Family HESPERIIDAE セセリチョウ科

1. *Chouspes benjaminii japonica* (MURRAY, 1875) アオバセセリ
6. Ⅶ.'78, 中齡幼虫 1 ex., 真庭郡新庄村高下にてミヤマハハソの巢中より採集。

Family PAPILIONIDAE アゲハチョウ科

2. *Parnassius glacialis* BUTLER, 1866 ウスバシロチョウ
 7. V.'77, 2 ♂, 苫田郡加茂町西黒木
 9. V.'77, 2 ♂, 苫田郡加茂町戸賀
 13. V.'77, 6 ♂ 1 ♀, 英田郡西粟倉村新田
 13. V.'77, 2 ♂, 英田郡西粟倉村猪之部
 19. V.'77, 2 ♂ 1 ♀, 新見市千屋実谷
 19. V.'77, 1 ♂ 2 ♀, 阿哲郡大佐町上刑部
 19. V.'77, 1 ♂, 真庭郡勝山町若代
 19. V.'77, 1 ♂, 真庭郡勝山町月田本
 5. V.'78, 1 ♂, 真庭郡落合町関(石井)
3. *Luehdorfia japonica* LEECH, 1889 ギフチョウ
 17. Ⅳ.'77, 12卵, および14卵(安井), 真庭郡勝山町神庭。この12卵を飼育したところ28. Ⅳ.'77, 孵化, 29. V.'77, 12頭とも蛹化した。幼虫期は32日であった。
4. *Papilio machaon hippocrates* C. et R. FELDER, 1864 キアゲハ
 3. X.'76, 前蛹 1 ex., 久米郡久米南町中級

これはヨモギの茎に前蛹となっていたもので、地上10cm位で積雪でもであると雪に埋れる高さであった。持ち帰り屋外に放置していたところ、5. X.'76に蛹化し、そのまま越冬して翌春羽化し飛び去った。

また、6. VII.'78, 5卵, 若齢幼虫 2 exs. シシウドに産卵中と葉上の幼虫を確認した。

5. *Papilio protenor demetrius* CRAMER, 1782 クロアゲハ

14. IX.'78, 若齢幼虫 1 ex., 都窪郡早島町早島にて夏みかんより採集し飼育したところ、
26. IX.'78, 体長51mmに達し27日前蛹となり、翌28日蛹化し、10月21日1♀が羽化した(室内)。蛹期24日である。また、28. IX.'78, 終齢幼虫 4 exs. が、岡山市久保山田にてユズの小枝上および葉上より見い出された。また、3. X.'78, 同所にて民家の軒下より蛹 2 exs. を採集した。色彩は 2 exs. とも褐色型であった。

6. *Papilio memnon thunbergii* von SIEBOLD, 1824 ナガサキアゲハ

19. V.'78, 1♀目撃, 岡山市牟佐

8. IX.'78, 1♀目撃, 岡山市東平島

10. IX.'78, 1♀産卵(ナツミカン), 倉敷市児島宇野津奥, この卵を吉田氏が飼育したところ、次の通りであった。9月10日産卵, 9月14日孵化, 10月7日蛹化, そして10月26日♀が羽化した(室内)。また、14. IX.'78, 都窪郡早島町早島にて夏みかんより終齢幼虫 3 exs. と若齢幼虫 1 ex. を採集(織田)。この 3 exs. を夏みかんで飼育したところ、1 ex. は9月24日に蛹となり、他の 2 exs. はともに9月26日蛹化した。この蛹を室内に保管していたところ、この内 1 ex. より10月14日に1♂が羽化し、他の 2 exs. は羽化したものより2日後に蛹化しているが、11月3日現在変化がない。また、若齢の 1 ex. は9月29日蛹化した。そして26. IX.'78, 岡山市沼にてハッサクより終齢 1 ex. 若齢 4 exs., および小枝に前蛹 1 ex. を確認した。後日これは緑型の蛹となっていた。また、26. IX.'78, 岡山市草ヶ部においても、ハッサクと夏みかんより、中齢幼虫を 1 ex. ずつ確認し、同日岡山市長岡でもウラタチにて終齢幼虫 1 ex. を見た。そして岡山市築港元町においては、レモンより終齢幼虫 4 exs. を確認している(吉田)。翌27. IX.'78, には岡山市原磯尾谷にてハッサクより中齢 2 exs., 夏みかんより終齢幼虫 3 exs. を観察したが、幼虫は日当りの悪い下の方の葉上、または小枝上に見い出された。また、2. X.'78, 岡山市久保山田にてユズの下に地面に、当日羽化したと思われる(まだ腹部が軟かい)♀で、翅の伸び切らない状態で死亡しており、頭部はまだ蛹殻をつけていた。翌3. X.'78, ユズより終齢幼虫 1 ex. と、隣接している民家の軒下より褐色型の蛹 2 exs. を採集した。

7. *Papilio maackii tutanus* FENTON, 1881 ミヤマカラスアゲハ

9. V.'77, 1♂, 苫田郡鏡野町角ヶ仙山頂

20. V.'77, 2♂, 真庭郡新庄村毛無山山頂

Family PIERIDAE シロチョウ科

8. *Gonepteryx aspasia nipponica* VERITY, 1909 スジボソヤマキチョウ

19. VI.'77, 3♂, 上房郡賀陽町上竹狐谷(石井)

Family LYCAENIDAE シジミチョウ科

9. *Narathura bazalus turbata* (BUTLER, 1881) ムラサキツバメ

25. Ⅷ.'76, 幼虫 3 exs., 小田郡美星町東水砂, (石井). 27. Ⅷ.'76, 幼虫 4 exs., 小田郡美星町東三成, (石井). そして, 28. Ⅷ.'76, 備前市伊里中において, シリブカガシに産卵中の 1 只を観察した. 午後 1 時 30 分頃東向きの少し日陰になるシリブカガシの古葉の裏へ, 中心的に産卵していた. 時折新芽にとまるが産卵しない. 1 卵産卵してはシリブカガシまたは, 付近の葉上に止まり翅を全開し, 少しの間静止しては次の産卵に移っていた.

10. *Araragi enthea* (JANSON, 1877) オナガシジミ

19. Ⅲ.'78, 11 卵, オニグルミ, 真庭郡新庄村高下

2. Ⅳ.'78, 27 卵, オニグルミ, 苫田郡阿波村大杉上流 (岸清己)

11. *Neozephyrus taxila japonicus* (MURRAY, 1875) ミドリシジミ

23. Ⅲ.'78, ハンノキより 7 卵, 岡山市横尾古屋横尾池付近

12. *Chrysozephyrus smaragdinus* (BREMER, 1864) メスアカミドリシジミ

7. Ⅴ.'77, 幼虫 1 ex., 苫田郡加茂町根知

9. Ⅳ.'77, 1 卵, 真庭郡新庄村高下

11. Ⅱ.'78, 3 卵, 阿哲郡哲西町日長谷 (岸清己)

13. *Chrysozephyrus aurorinus* (OBERTHÜR, 1880) アイノミドリシジミ (写真①, ②)

5. Ⅻ.'76, ミズナラより 3 卵, および (石井) 3 卵, 真庭郡新庄村毛無山

11. Ⅻ.'76, ミズナラより 1 卵 (安井), 苫田郡阿波村八本越の下

18. Ⅻ.'76, ミズナラより 1 卵 (岸清己), 苫田郡阿波村五林原の下. 今まで新庄村と阿波村よりの報告は見当らない.

14. *Quercusia fujisana* (MATSUMURA, 1910) フジミドリシジミ (写真③, ④)

13. Ⅳ.'77, ブナより 2 卵, イヌブナより 1 卵, および (石井) ブナより 3 卵, イヌブナより 1 卵. 真庭郡新庄村毛無山. 生息地における孵化の時期は, 3. Ⅴ.'77 においては, 1 齢~2 齢であり, 23. Ⅳ.'77 においては, ごく一部が卵に穴をあけていた. このことから毛無山における孵化は, 主に 4 月 25 日頃~末にかけて行われるものと思う. また, 1. Ⅴ.'77, 苫田郡加茂町根知において, ブナより孵化後 4 卵, および若齢幼虫を 2 exs. を採集した. この幼虫はブナの新芽を 2 枚軽くつなぎ合わせる程度の巣を作り, 下の葉の葉上に静止しており, 体長 7 mm であった. また, 11. Ⅻ.'77, 苫田郡阿波村五林原の下にて, ブナより 5 卵, および (岸洋司) 2 卵を採集した. いままで新庄村, 加茂町, 阿波村からの報告は見当らない.

15. *Favonius saphirinus* (STAUDINGER, 1887) ウラジロミドリシジミ

県内においての主食樹はナラガシワであるが, カシワよりも採卵が確認されている. その他についてはクヌギ, ミズナラでも卵が稀にみつかることが, 原色日本蝶類図鑑, 全改訂新版, 保育社, 1976 に記されている. また, 原色日本昆虫生態図鑑, Ⅲ チョウ編,

保育社1972においても、ナラガシワおよびカシワ以外については、クヌギとミズナラを自然状態における二次的食樹として記載している。ところが、4. I.'77, 岸清己氏の案内により、久米郡久米南町中樞にてコナラに産卵されている本種の卵を19卵採卵出来たので、状況をメモしておく。2. I.'77, 8卵採(岸清己)内5卵を頂芽1ヶ所に産卵し、他の3卵は頂芽で、1卵ずつであった。4. I.'77, 19卵採。この内訳は小枝分岐部上部に1卵ずつ7ヶ所、2卵が1ヶ所、下部2卵(寄生)1ヶ所、小枝分岐部横の休眠芽付近4卵が2ヶ所であった。樹高約5mのコナラで休眠芽は大きく、西向きで日当りの良い急な斜面で、標高は200m位である。周辺にはコナラが多く、次いでアベマキもあり、ナラガシワは小さな木が数本しか認められないが、そこより少し下り、谷沿いには大木がかなりあった。卵はコナラの下枝より多く見い出せた。また、これらを飼育し、次のようであった。4月10日孵化、5月22日蛹化、6月8日羽化♂、飼育樹コナラ(岸清己)。4月6日孵化、5月3日蛹化、5月22日羽化♀、飼育樹コナラ。これ以外にコナラとウバメガシの花穂を与え1♂1♀を羽化させ、本種であることを確認している。また、同じ中樞であるが2~3km離れた1ヶ所と、御津郡建部町入野および久米郡久米南町上神目でもコナラより採卵している(岸清己)。これらより判断すれば、採卵も2~3卵でなく、一時的なものとは思わず、この地域においては二次的な食樹となっている可能性が強いと思われる。参考までにこの一帯はナラガシワの大木が多く残されており“すずむし”第113号に岸清己氏らが発表している通り、ヒロオビミドリシジミが非常に多い所である。

16. *Favonius jezoensis* (MATSUMURA, 1915) エゾミドリシジミ

5. XII.'76, ミズナラより3卵、および(石井)5卵、真庭郡新庄村毛無山。また、同所にて5. III.'78, ミズナラの小枝分岐部上部(径2cm)より2ヶ所で10卵、および9. IVに同所にて39卵を採集した。その産卵位置は径1~1.5cmの小枝分岐部上部であり1卵が8ヶ所、2卵4ヶ所、3卵3ヶ所、5卵1ヶ所、そして9卵の卵塊が1ヶ所であった。また、同じ日の9. IV.'78に真庭郡新庄村高下において、ハルニレの小枝に産卵された1卵を採集した。アラカシとナラガシワにより飼育をし5月26日本種1♂が羽化した。

17. *Favonius latifasciatus* SHIRÔZU et HAYASHI, 1959 ヒロオビミドリシジミ

19. VI.'77, 8♂, 上房郡賀陽町上竹狐谷(石井)

11. II.'78, 9卵, ナラガシワ, 上房郡北房町蟹川

18. *Favonius cognatus* (STAUDINGER, 1892) ジョウザンミドリシジミ

5. XII.'76, ミズナラより7卵、および(石井)8卵、真庭郡新庄村毛無山

19. *Strymonidia w-album fentoni* (BUTLER, 1881) カラスシジミ(写真⑤, ⑥)

県内のカラスシジミについては、東栗倉村後山、新見市上市九の坂、阿哲郡神郷町三室、新見市足立において、成虫の採集報告がされているのみである。今回、その食樹であるハルニレ、オビョウより卵の採集を試み、県内の2ヶ所より採卵することが出来たので、その状況と飼育記録をメモしておく。

16. XII.'77, 阿哲郡哲西町日長谷において、ハルニレより4卵、オビョウより2卵を採集した。産卵位置はハルニレにおいて地上4~5mの小枝分岐部であり、オビョウにおいては小枝分岐部と径4cmの幹分岐部上部の樹皮わん曲部であった。また、5. III.'78, 真

庭郡新庄村大原においてもハルニレより7卵を確認したが、無精卵や寄生および孵化後等で、生卵は3卵であった。また、同所にて19. III.'78、ハルニレより1卵を採集した。産卵位置はいずれも、小枝分岐部および小枝上の樹皮のうげ目であった。これらを飼育した記録が次の表である。

(飼育年1978年、飼育地岡山市東平島)

採卵地	採卵樹	飼育樹	孵化	1眠起	2眠起	3眠起	蛹化	羽化	性別
日長谷	ハルニレ	ハルニレ	10. IV	16. IV	23. IV	28. IV	9. V	22. V	♂
〃	〃	〃	10. IV	16. IV	23. IV	28. IV	10. V	24. V	♀
〃	〃	〃	10. IV	—	26. IV	1. V	13. V	26. V	♀
〃	〃	〃	12. IV	20. IV	26. IV	2. V	15. V	28. V	♀
〃	オヒョウ	オヒョウ ハルニレ	5. IV	16. IV	23. IV	—	12. V	25. V	♀
大原	ハルニレ	ハルニレ	10. IV	16. IV	—	—	12. V	26. V	♀
日長谷	オヒョウ	オヒョウ ハルニレ	2. IV	16. IV	死亡				

全体的に、飼育上ではオヒョウよりハルニレを好んだ。なお、蛹の体長は11~12mmであった。また、採卵地の状況は日長谷の場合、斜面に自生しているオヒョウと1本しかないハルニレより見い出された。どちらも溪流沿にあり、この付近のみ自然が残されている程度で、周辺はほとんど植林されていた。また、新庄村大原においては、採卵されたのは孤立したハルニレからで、周辺のハルニレが多く自生している林からは見つからなかった。この孤立したハルニレは民家に近く、すぐ近くには山があり溪流沿にあった。そして、この大原よりあまり離れていない新庄村高下には、ハルニレが非常に多い所であるが、見出すことが出来なかった。

20. *Spindasis takanonis* (MATSUMURA, 1906) キマダラルリツバメ (写真⑦, ⑧)

6. VI.'77、英田郡英田町福本にて、サクラの木より生蛹3 exs. を採集。体長は13mmが2 exs. で11mmが1 ex. であり、このうち2 exs. より2 ♀が羽化した。また、14. VI.'77、同所にて午後4時~6時の観察によると、4時30分頃地上2.5m位のサクラの葉上で、1 ♂が翅を半開にして静止しており、少しの風でも葉がゆれると翅を閉じ、風が止むと再び翅を半開にしていた。4時30分~5時頃になると♂はもっと高い樹上を活発に飛び、葉上にとまっては翅を開き、近くを他の物(何でもよい)が通過すると、猛然と追跡し、強い占有性を示した。付近を他の♂が通過すると、その追跡は上空見えなくなるまで行なうこともしばしばある。また、同日5時ヒメジョオンに吸蜜中の1 ♀を観察したが、非常に鈍感であった。そして、5時20分頃小枝上に今日羽化したと思われる腹部の大きい、新鮮な♀を見つけたが、小枝上を歩いたり、飛び方もやっと飛ぶ程度で、すぐ発生木であるサクラの葉裏にとまり静止した。また、19. VI.'77、同所にて午後1時頃サクラの根元より40 cmの高さに、羽化してまだ翅を乾かしている♂を確認した。この木は古くすぐ近くに空洞

があり、ここより脱出したものと思われる。なお、ここにおける発生は毎年6月10日頃よりであり前記のように6月19日に♂が羽化することから見て、その発生は6月10日頃より6月下旬近くまで続くと推測される。

21. *Niphanda fusca* (BREMER, 1864) クロシジミ

3. X.'76, 久米郡久米南町中畑にて、ススキの葉上基部周辺に多数の卵殻を確認した。卵は葉上の端に葉を縁どるように列をつくり産卵されていた。また、20. VII.'77, 久米南町別所にて、コマツナギに産卵されているものを観察した。付近にはアブラムシの一種とクロオオアリがおり、卵のほとんどは葉上に産卵されていた。

22. *Maculinea teleius daisensis* (MATSUMURA, 1926) ゴマシジミ

7. VIII.'76, 1♂, 阿哲郡大佐町大井野
 14. VIII.'76, 3♂, 高梁市巨瀬町神子山(石井)
 15. VIII.'76, 2♀, 上房郡賀陽町上竹聖坊山(石井)
 17. VIII.'76, 7♂, 1♀, 上房郡賀陽町豊野大蔵池(石井)
 30. VI.'78, 3 exs., 真庭郡新庄町高下上流(岸清己)。賀陽町産のものは、個体変異の多い他の産地のものと比べ、前後翅表の地色は明るく、外縁の黒帯と地色との境界は明瞭で、中国地方産の特色を良くあらわしており、各個体を見てもその度合は安定している。外縁よりかなり内側に黒い個体(県北の産地にはよくある)はいままで見ていない。

23. *Celastrina sugitani* (MATSUMURA, 1919) スギタニルリシジミ

3. V.'77, 1♂, 真庭郡新庄町毛無山
 4. V.'78, 6♂5♀, 苫田郡上斎原村宮ヶ谷(石井)

24. *Tongeia fischeri* (EVERSMANN, 1843) クロツバメシジミ

24. X.'76, 1 ex. 御津郡御津町金川。
 10. XI.'77, 3 exs., 和気郡和気町和気。この内1 ex. は当日羽化したもので、屋根に生えているツメレンゲの茎にとまり翅を乾かせていた。また、日本瓦の端にある模様のある場所、あるいはその裏より生蛹4 exs. を確認し、ツメレンゲの茎およびその根元でも蛹殻が見い出された。また、12. XI.'77, 同所においての観察によると、成虫は常に翅を半開または、それ以上ひろげており、気温が低いため日が陰ると飛ばない。そして日が差すと飛ぶが活発ではない。また、23. XI.'77に蛹を3 exs. 採集し、当日2 exs. が羽化し、もう1個体は24日に羽化した。これら最終羽化については「岡山県の蝶“すずむし”第108号で、赤枝一弘氏がその周年経過にいたるまで詳しく分析されているが、遅い羽化の例として記録しておく。

Family DANAIIDAE マダラチョウ科

25. *Parantica sita nipponica* (MOORE, 1883) アサギマダラ

6. X.'76, 1♂, 岡山市大供にて午前11時頃タンポポの一種に訪花していた。

Family NYMPHALIDAE タテハチョウ科

26. *Fabriciana nerippe* (C. et R. FELDER, 1862) オオウラギンヒョウモン

本種についてはすでに蒜山において記録されているが、近年急激にその姿を消しつつある蝶であろう。最近県内において、採集報告が全くないので記録しておく。

1. VIII.'76, 2♂, (内1♂石井), 真庭郡川上村明連付近. ウラギンビョウモンにまじって飛んでおり、石井氏が採集するまで全く見分けがつかなかった。今後の確認には注意を要する。

27. *Argyreus hyperbius* (LINNAEUS, 1763) ツマグロビョウモン

16. VIII.'77, 上房郡賀陽町上竹聖坊山にて交尾行動が観察出来た。♂が山頂の少しひらけた一定の空間を占有しており、上空を他のもの（アゲハチョウ、他の昆虫類、鳥類等）が通過するたびに猛然と追跡し、再びもとの場所にもどり、付近の樹木葉上、そしてススキ、地上にもよくとまり翅をひろげる。このような行動を繰り返しているところに♀が通りかかり、これを追飛し近くのススキの葉上に雄と雌がとまり、雄は尾部を曲げ横の方より、しきりと交尾行動に入った。雌はその間翅を閉じほぼ静止していた。雄が追飛してから交尾成立まで1分とかからなかった。飛行形式は←♀+♂で飛び去った。

28. *Melitaea diamina regama* FRUHSTORFER, 1915 ウスイロビョウモンモドキ

21. VI.'77, 新見市豊永佐伏において午後1時頃交尾行動を観察した。飛行型式は←♀+♂で非常に敏感であり、驚くと高い木があればそれにとまり、翅は雄においては時折開閉し、雌はよく開閉する。また、ススキに雌が翅を開けたままでとまり、♂は閉じてぶらさがっていた。雑草の日陰において♂♀の交尾行動が2度にわたり観察出来たが、雌が翅を開いたままで、いずれも不成立に終わった。

29. *Vanessa cardui* (LINNAEUS, 1758) ヒメアカタテハ

本種については「岡山県の蝶」“すずむし”第108号において4月、5月に越冬成虫が採集されていることや、8月には全く記録のないことがあげられている。また、食草についても報じられていない。昨年から今年にかけて産卵行動および幼虫での越冬について若干の観察ができ、8月にも産卵と多くの個体を確認し、10月には蛹も見出したので記録しておく。

12. IX.'77, 岡山市東平島にてヨモギの葉上に約1分間で3卵を産卵した。また、同所において、15. I.'78, ヨモギの中より体長20~35mmの幼虫を5 exs. 確認した。1月であるのに日中ヨモギを食していた。その気温は15℃を越えており当日午後3時を過ぎ15℃を下ると、ヨモギの枯れ葉の間にかくれた。また、同所で、20. VII.'78, 付近にヨモギがあるにもかかわらず、メヒシバの葉上に1卵を産卵した。そして8月に入っては、13. VIII.'78に邑久郡邑久町豆田の吉井川堤防にてヨモギにしきりと産卵している1♀と、ヨモギの新芽を綴っている幼虫の巣を多数確認した。産卵は新芽に1卵ずつ行っていた。そして11. IX.'78, 倉敷市児島宇野津奥にてケイトウに訪花している本種多数を目撃し、8. X.'78, 再び岡山市東平島において終齢幼虫 1 ex. がヨモギに作った巣よりはみだして食しており、糞の残った空の巣が付近に多いことから、幼虫は成長するにしたがい巣を移動するものと思われる。また、22. X.'78, 総社市見延においてゴボウの葉より、中齢および終齢幼虫を多数確認し、巣の中と葉裏に垂蛹となっている蛹 4 exs. を採集した。

30. *Dichorragia nesimachus nesiotus* FRUHSTORFER, 1903 スミナガシ

2. VII.'78, 若齡幼虫 2 exs., 真庭郡新庄村高下にてミヤマハハソより採集した。また、
 6. VII.'78, 若齡幼虫 5 exs., アワブキ, 真庭郡湯原町常路井。同日, 若齡幼虫 2 exs.,
 アワブキ, 真庭郡新庄村中谷, 21. VII.'78, 真庭郡新庄村野土路, アワブキより体長5.5
 cmの幼虫 2 exs. そして同日真庭郡新庄村土用でもミヤマハハソより体長2.5cmの幼虫 1
 ex. を採集した。また, 同村毛無山でも30. VII.'78, ミヤマハハソより2齡 1 ex. (吉田)。
 また, 吉田氏の飼育記録によると, 15例の内14例までが, ハエまたはハチの1種に寄生さ
 れており, 蛹化後脱出した。羽化した1例はミヤマハハソより7月30日毛無山にて採集し
 た2齡幼虫で, 8月2日3齡, 8月4日4齡, 8月7日5齡, 8月14日蛹化, 8月22日1
 齢が羽化した(吉田)。

Family SATYRIDAE ジャノメチョウ科

31. *Ypthima motschulskyi nipponica* MURAYAMA, 1969 ウラナミジャノメ

19. VI.'77, 2 ♂, 上房郡賀陽町上竹狐谷(石井)

32. *Lethe marginalis* (MOTSCHULSKY, 1860) クロヒカゲモドキ

12. VI.'77, 新見市草間にてススキ葉裏より終齡幼虫 1 ex. を採集, 体長は51mmであっ
 た。

これを持ち帰ったところ, 以後ほとんど食さず, 6月23日蛹化し, 7月4日雌が羽化し
 た。また, 同所において6. VII.'77, ススキの葉裏に垂蛹となっている蛹 1 ex. を採集し,
 室内においていたところ7月14日雌が羽化した。

33. *Ninguta schrenckii* (MÉNÉTRIÈS, 1859) オオヒカゲ

16. VII.'77, 5 ♂ 1 ♀, および5 ♂ (安井) 真庭郡新庄村田浪, 午前10時30分頃羽化し
 て間もない個体も確認でき, 驚くと頭上の小枝にとまるものもいたが, 正午頃よりは追跡
 するとかなり早く, しかも不規則に飛び必ず雑草が生い茂った, 樹木の基部周辺に静止し
 た。活動時間でないためか, 明るい所を極度に嫌うようである。

34. *Kirinia epaminondas* (STAUDINGER, 1887) キマダラモドキ

16. VII.'77, 1 ♂, 真庭郡新庄村田浪

35. *Neope nipponica* BUTLER, 1881 ヤマキマダラヒカゲ

20. V.'77, 1 ♂, 真庭郡新庄村毛無山山頂

28. V.'77, 1 ex., 苫田郡阿波村大杉上流

16. VII.'77, 1 ♀, 真庭郡新庄村田浪

写真説明

①アイノミドリシジミ♀ 新庄村毛無山産飼育, 26. V.'78, 羽化。

②アイノミドリシジミ♀ 新庄村毛無山産飼育, 21. V.'78, 羽化。

③フジミドリシジミ♂ 加茂町根知産飼育, 23. V.'78, 羽化。

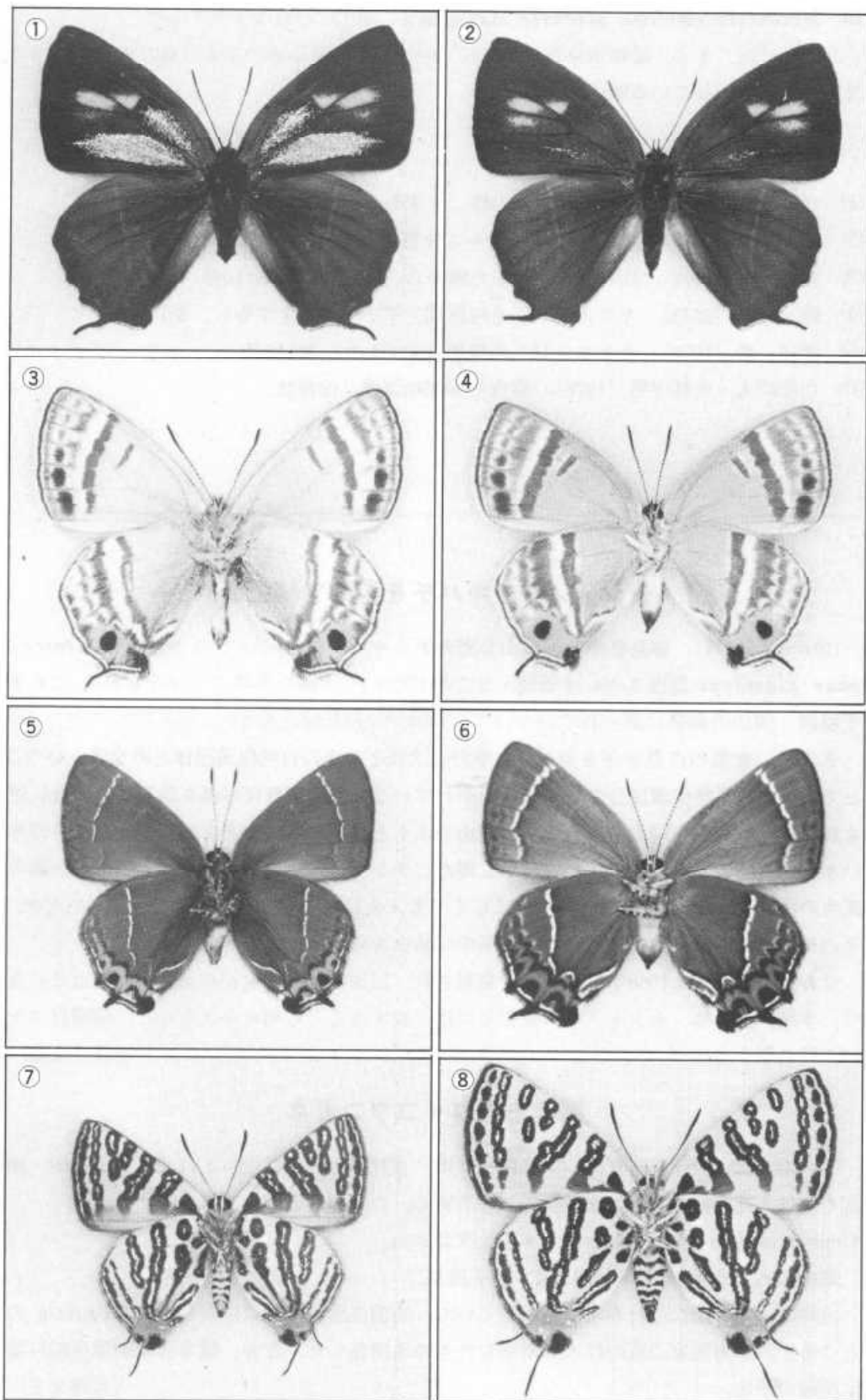
④フジミドリシジミ♀ 阿波村五林原産飼育, 19. V.'78, 羽化。

⑤カラスシジミ♂ 哲西町日長谷産飼育, 22. V.'78, 羽化。

⑥カラスシジミ♀ 哲西町日長谷産飼育, 28. V.'78, 羽化。

⑦キマダラルリツバメ♂ 英田町福本産, 17. VI.'78, 採集。

⑧キマダラルリツバメ♀ 英田町福本産, 6. VI.'78, 蛹採集, 13. VI.'78, 羽化。



36. *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA, 1919 クロコノマチョウ

9. IX.'78. 1 ♂. 総社市見延 (吉田). 午後4時頃柿の木の下より飛び出したもので、夏型の少々破損している個体であった。

参 考 文 献

- (1) 倉敷昆虫同好会 (1972). 岡山県の蝶. すずむし, 第108号.
- (2) 中村具見 (1973). 岡山県のゼフィルス分布生態メモ. すずむし, 第110号.
- (3) 渡辺 毅 (1973). 1973年に採集した蝶から. すずむし, 第110号.
- (4) 難波圭吾 (1973). カラスシジミを阿哲郡三室で採集. すずむし, 第110号.
- (5) 渡辺 毅 (1975). カラスシジミの採集. すずむし, 第111号.
- (6) 川副昭人・若林守男 (1976). 原色日本蝶類図鑑, 保育社.

チシャノキクキバチを四国で初記録

1978年3月27日, 徳島県徳島市城山公園のチシャノキで, チシャノキクキバチ *Sinicephus giganteus* 幼虫 3 exs. を確認することができた. 本種の本邦における分布は, これまで福岡と岡山の両県に限られていたので, 四国では初記録となる.

その日, 倉敷の自然を守る会から, 宇野弘之氏と他市の自然保護団体との交流ということで, 徳島県自然保護協会の事務局のおかれている徳島大学教育学部を訪問する機会に恵まれた. 徳島駅から同大学への途中, 城山のふもとにある城山公園を通過するが, そのさい本種の食樹であるチシャノキを目撃し得た. チシャノキは, 相当大きいもので, 公園の芝生の中に1本立っていた. ひと茎ほしくても, 人目もあり, なかばあきらめていたが, その樹下には幸い小枝が落ちており, 茎中に幼虫を確認することができた.

なお, 岡山県では1968年に倉敷市で発見され, 以来県下の各地から記録されるようになり, 本種の分布は, チシャノキの分布とほぼ一致することも明らかになった. 膜翅目クキバチ科に属する. (近藤 光宏)

高梁市のダイコクコガネ

ずいぶん古い記録を持ち出して恐縮ですが, 青野孝昭氏の私信によれば, 岡山県中・南部からはまだ記録されていないとのことである. ここに一応報告する.

Copris ochus MOTSCHULSKY ダイコクコガネ

岡山県高梁市春木, July 26.'51, 1 ♂採集.

当時は, 川上郡松原村春木といわれていた. 吉備高原の西端に位置し, 標高約400mのところ, 夕方民家の庭の灯火へ飛来したものを採集した. なお, 標本は倉敷昆虫館に展示所蔵の予定. (近藤光宏)

岡山県より採集した甲虫類

山 地 治

(〒700 岡山市幸町9-9)

岡山県の甲虫について那須敏・分島徹人・渡辺昭彦の各氏より記録をいただきましたので、筆者の記録を加えて報告します。報告に当っては岡山の昆虫（倉敷昆虫館）1978を参考にし目録に載っていないものおよび記録の少ないと思われるものに限りました。筆者の採集品については採集者名を省きました。

セスジムシ科

1. *Rhysodes niponensis* LEWIS ホソセスジムシ
勝田郡那岐山, 1 ex., 3. VI. 1973. 叩き網にて採集.

ハンミョウ科

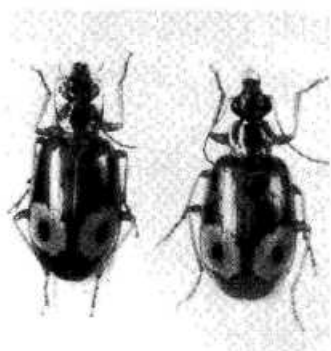
1. *Cicindela gemmata aino* LEWIS アイヌハンミョウ
苫田郡天王, 1 ex., 16. V. 1971.
苫田郡三ヶ上, 4 exs., 18. V. 1974.
新見市馬塚, 1 ex., 2. V. 1976, 川原.
新見市千屋, 1 ex., 2. V. 1976, 川原.



アイヌハンシヨウ

ゴミムシ科

1. *Lebidia bioculata* MORAWITZ フタツメゴミムシ
高梁市臥牛山, 3 exs., 10. V. 1974, ウラジロノキ花上.
クワガタムシ科



フタツメゴミムシ

1. *Dorcus curvidens* HOPE オオクワガタ
津山市沼, 1 ♂, 22. VIII. 1970, 山地渉採.
津山市, 1 ♂, VIII. 1971, 採集者不明.
倉敷市庄, 2 ♂, 19. VII. 1966, 渡辺採. 直海俊一郎氏
保管.
倉敷市矢部, 1 ♂, 15. VII. 1967, 赤木一行採. 直海俊
一郎氏保管.

2. *Aegus laevicollis* SAUNDERS ネプトクワガタ

岡山市高松, 1 ♂, 24. VII. 1974.
津山市沼, 2 ♂, 31. VII, 8. VIII. 1971, 山地渉採.
英田郡福本, 3 ♂, 18. VI. 1978, 那須採. ニレの樹液.
邑久郡大平山, 1 ♂, VIII. 1978, 那須採. ポプラの樹液.

コガネムシ科

1. *Ochodeus maculatus* WATERHOUSE アカマダラセンチコガネ

高梁市臥牛山, 1 ex., 14. V. 1973, 渡辺採. 飛翔中の個体.

2. *Aphodius unifasciatus* NOMURA et NAKANE クロオビマグソコガネ
英田郡若杉, 1 ex., 8. V. 1977, 渡辺採. 飛翔中.

3. *Proagopertha pubicollis* WATERHOUSE ナラノチャイロコガネ
高梁市木野山, 1 ex., 23. IV. 1972.
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 18. V. 1974.
御津郡宇甘溪, 1 ex., 29. IV. 1976.

4. *Mimela takemurai* SAWADA タケム
ラスジコガネ
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 1. VII. 1973; 1 ex.,
9. VII. 1974.

5. *Pollaplonyx flavidus* WATERHOUSE
オオキイロコガネ

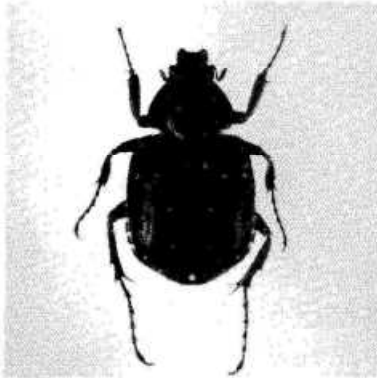
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 14. V. 1977.

6. *Valgus fumosus* LEWIS オオヒラタハナムグリ

苫田郡三ヶ上, 1 ex., 9. VII. 1972, クリ花上. 竹内幸夫氏によりすでに報告されているが少ない種である.

7. *Gnorimus viridiopacus* LEWIS アオアシナガハナムグリ

英田郡若杉, 1 ex., 16. VII. 1975, ノリウツギ花上.



アオアシナガハナムグリ

英田町福本, 3 exs., 26. V. 1978, 那須採. ナラガシワ伐採枝上.

以上の個体はすべて4つ紋型であった. 本種は高梁川流域で採集され報告もされているが今回旭川・吉井川流域にも分布していることが分かった.

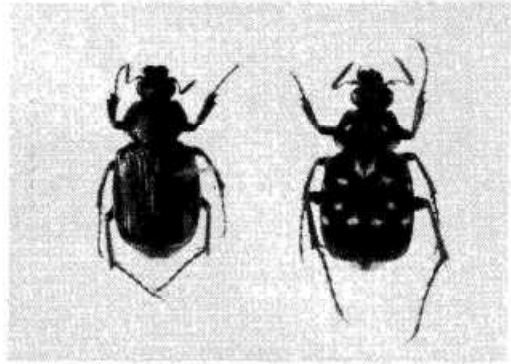
2. *Coraebus montanus* MIWA et CHŪJŌ ミヤマナカボソタマムシ

苫田郡三ヶ上, 1 ex., V. 1974, サワフタギ枯木採取, VI. 1974, 羽化脱出. 那須採.
苫田郡恩原川, 1 ex., 1. VIII. 1975.

カツオブシムシ科

1. *Attagenus pellio* LINNE シラホシヒメカツオブシムシ

川上郡西油野, 2 exs., 25. IV. 1976, ケヤキの樹皮下より採集.



ジュウシチホシハナムグリ

左. 三ヶ上産

右. 屋久島産

8. *Paratrachius septemdecimguttatus* SN.
ELLEN VOLLENHOVEN ジュウシチホシハナムグリ

苫田郡三ヶ上, 1 ex., 9. VII. 1972, クリ花上.
紋の消えた個体であるが, 屋久島産の個体と比較してその他の差異は見られなかった.

タマムシ科

1. *Chrysobothris samurai* OBENBERGER ツ
シマムツボシタマムシ

御津郡金川, 1 ex., 30. V. 1975, 那須採: 3
exs., 19. V. 1977.

2. *Anthrenus pimpinellae* FABRICIUS シラオビマルカツオブシムシ
御津郡小森, 1 ex., 1. V. 1976.

カッコウムシ科

1. *Tarsostenus univittatus* ROSSI シロオビカッコウムシ
倉敷市上東, 1 ex., VI. 1969; 1 ex., 19. VIII. 1974, 渡辺採.
2. *Stigmatium pilosellum* GORHAM ダンダラサビカッコウムシ
岡山市半田山, 1 ex., IV. 1974.
高梁市臥牛山, 10 exs., 15. V. 1971, 臥牛山では5月に枯ヅル上に多い.
3. *S. nakanei* IGA クロサビカッコウムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 2. VIII. 1970.
御津郡本宮山, 1 ex., 17. VI. 1973.
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 9. VII. 1972; 1 ex., 9. VII. 1974.
4. *Tenerus hilleri* HAROLD ツマグロツツカッコウムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 2. VIII. 1970.
5. *Tillus igarashii* KONO イガラシカッコウムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 10. VI. 1972; 1 ex., 29. V. 1974.
高梁市広瀬, 1 ex., 17. V. 1975.
6. *Spinoza caerulea* LEWIS ルリホソカッコウムシ
高梁市臥牛山, 2 exs. 3. 5. V. 1971; 1 ex., 29. IV. 1972; 2 exs., 10. V. 1974. いずれもカエデ花上より得られた.

ヒラタムシ科

1. *Cucujus coccinatus* LEWIS ベニヒラタムシ
勝田郡滝山, 2 exs., 6. V. 1973.
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 16. V. 1976, ケヤキ伐木の樹皮下より.
英田郡若杉, 1 ex., 8. V. 1977, 渡辺採.
2. *C. opacus* LEWIS エゾベニヒラタムシ
英田郡若杉, 2 exs., 8. V. 1977, 渡辺採.
3. *Dendrophagus longicornis* REITTER ヒゲナガヒメヒラタムシ
英田郡若杉, 2 exs., 8. V. 1977, 渡辺採. 樹皮下より採集.
4. *Laemophloeus submonilis* REITTER キボシチビヒラタムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 10. VI. 1972.

コメツキモドキ科

1. *Anadastus atriceps* CROTCH キムネヒメコメツキモドキ
倉敷市高鳥居山, 1 ex., 25. V. 1973, 渡辺採.

オオキノコムシ科

1. *Cyrtotriplax pallidicincta* LEWIS キベリチビオオキノコムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 24. IV. 1971; 1 ex., 6. VI. 1976, 渡辺採.
2. *C. biplagiata* LEWIS フタモンチビオオキノコムシ

- 苦田郡三ヶ上, 3 exs., 13. V. 1973, 渡辺採; 2 exs., 18. V. 1975.
3. *C. tripartitaria* LEWIS カタバニチピオオキノコムシ
苦田郡三ヶ上, 1 ex., 13. V. 1973, 渡辺採.
4. *C. towadensis* CHŪJŌ イツボシチピオオキノコムシ
高梁市臥牛山, 2 exs., 15. IV. 1978.
5. *C. cenchris* LEWIS コモンチピオオキノコムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 10. V. 1972; 1 ex., 6. VI. 1976, 渡辺採.
6. *Episcapha gorhami* LEWIS ゴーラムオオキノコムシ
高梁市臥牛山, 3 exs., 5. X. 1969; 1 ex., 13. XI. 1976.
勝田郡滝山, 1 ex., 2. VIII. 1973.
真庭郡湯原, 1 ex., 11. VIII. 1974.
新見市千屋, 2 exs., 2. V. 1976.
川上郡西油野, 2 exs., 1. X. 1977.
7. *Megalodacme dellula* LEWIS カタバシエグリオオキノコムシ
勝田郡滝山, 1 ex., 5. VI. 1977, 渡辺採.

テントウムシ科

1. *Neomysia nipponica* YUASA ジュウロクホシテントウ
総社市宇山, 1 ex., 19. V. 1973.
2. *Coccinula crotchii* LEWIS マクガタテントウ
岡山市玉柏 (大原橋下旭川川原), 1 ex., 4. IV. 1976.
3. *Callicaria superba* MULSANT ハラグロオオテントウ
高梁市木野山, 1 ex., 23. IV. 1973.
御津郡小森, 1 ex., 1. V. 1976.
川上郡吹屋, 2 exs., 23. IV. 1977.

以上はすべてカエデの花をすくって得た.

- 新見市井倉, 1 ex., 23. VI. 1963, 那須採.
苦田郡奥津, 2 exs., 25. VI. 1966, 那須採. 蛹より羽化.
新見市草間, 1 ex., 4. VII. 1971, 那須採.
新見市土橋, 2 exs., 2. VII. 1978, 同時に蛹 5 exs. 持ち帰り羽化した. 那須採.
那須氏の採集したものは蛹も含めてすべてクワの木より得ている.
4. *Plotina versicolor* LEWIS クロヘリメツブテントウ
高梁市臥牛山, 1 ex., 6. VI. 1976, 渡辺採.

ホソカタムシ科

1. *Neotrichus hispidus* SHARP サシゲホソカタムシ
勝田郡那岐山, 1 ex., 14. XI. 1971, ブナ朽木中.
2. *Dastarcus longulus* SHARP サビマダラオオホソカタムシ
高梁市臥牛山, 1 ex., 5. V. 1971; 1 ex., 17. VIII. 1971.

ゴミムシダマシ科

1. *Idisia ornata* PASCOE ハマヒョ
ウタンゴミムシダマシ

倉敷市沙美海岸, many exs., 6. XI.
1976, 砂浜のゴミの下.

2. *Caedius marinus* MARSEUL マルチ
ビゴミムシダマシ

倉敷市沙美海岸, many exs., 6. XI.
1976, 砂浜のゴミの下

3. *C. maderi* KASZAB オオマルチビ
ゴミムシダマシ

邑久郡西脇海岸, 1 ex., 23. X. 1976, 砂浜の砂の中.

4. *Platydemus lymceum* LEWIS オオメキノコゴミムシダマシ

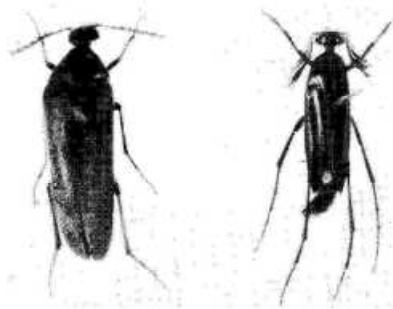
苫田郡三ヶ上, 1 ex., 1. VII. 1973.

5. *Basanus erotyloides* LEWIS ヨツボシゴミムシダマシ

勝田郡滝山, 2 exs., 6. V. 1973.

総社市槻, 3 exs., 27. II. 1974.

オオハナノミ科



左. クチキオオハナノミ
右. オスグロオオハナノミ

1. *Pelecotomoides tokejii* NOMURA et NAKANE

クチキオオハナノミ

苫田郡三ヶ上, 1 ex., 26. VI. 1971; 1 ex., 9.
VII. 1974.

高梁市臥牛山, 1 ex., 2. VI. 1973.

2. *Macrosiagon cyamiveste* MARSEUL オスグロ

オオハナノミ

苫田郡三ヶ上, 1 ♂, 9. VII. 1972, クリ花上; 1 ♂,
9. VII. 1974.

カミキリモドキ科

1. *Asclera brunneipennis* LEWIS ハネアカカミキリモドキ

勝田郡那岐山, 1 ♂, 20. VII. 1971; 1 ♂, 26. VII. 1974.

共にノリウツギ花上より採集.

2. *A. japonica* PIC アカクビカミキリモドキ

1 勝田郡滝山, 1 ex., 2. VII. 1973.

ツチハンミョウ科

1. *Zonitis cothurnata* MARSEUL ツマグロキイロゲンセイ

赤磐郡山陽町, 1 ex., 12. IX. 1978, 渡辺探. ライトトラップにより採集.

アリモドキ科

1. *Notoxus haagi* MARSEUL クロスジイッカク

岡山市玉柏 (旭川川原), 2 exs., 12. VI. 1974, 叩網により採集.



左. オオマルチビゴミムシダマシ
中. マルチビゴミムシダマシ
右. ハマヒョウタンゴミムシダマシ

2. *Mecynotarsus niponicus* LEWIS ツノボソチビイッカク
岡山市玉柏 (旭川川原), 4 exs., 4. IV. 1976.
高梁市広瀬 (高梁川川原), 1 ex., 18. IV. 1976.
3. *M. tenuipes* CHAMPION ホソアシチビイッカク
倉敷市沙美海岸, 19 exs., 6. XI. 1976, 砂浜のゴミの下等.
カミキリムシ科
1. *Molorchus nitidus* OBIKA ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ
川上郡西油野, many exs., 5. V. 1975, 藤本・渡辺・分島・山地採; many exs.,
25. IV. 1976, 直海・渡辺・山地採; 3 ♂, 2. V. 1978, 分島・山地採. いずれもカエ
デ花上より採集.
2. *Paramenesia theapia* BATES ジュウニキボシカミキリ
苫田郡恩原, 1 ex., 19. VII. 1977. 福田採; 1 ex., 17. VI. 1978, いずれもセンノキ
より採集した. 当地のセンノキは本種のものと思われる線状の後食跡がほとんどすべての
葉上に認められた.
ヒゲナガゾウムシ科
1. *Zygaenodes leucopis* JORDAN ウシズラヒゲナガゾウムシ
苫田郡三ヶ上, 1 ♂ 1 ♀, 19. VIII. 1972.
ミツギリゾウムシ科
1. *Baryrrhynchus poweri* ROELOFS ミツギリゾウムシ
高梁市臥牛山, 1 ♂ 2 ♀, 1. VIII. 1971.

川上郡穴門山のカミキリムシ数種

三宅宗夫

(〒712 倉敷市連島町西ノ浦5820)

穴門山の周辺は寒冷性種が発見されている興味ある地域です. 下記の興味ある種を確認
しましたのでご報告しておきます.

1. *Toxotinus reinii* HEYDEN モモグロハナカミキリ
4. VI.'77; 27. VI.'77.
2. *Anoplodera (Pseudalosterna) misella* BATES チャボハナカミキリ
27. VI.'78.
3. *Judolia (Pachytodes) cometes* BATES マルガタハナカミキリ
27. VI.'78.
4. *Epiclytus yokoyamai* KANO ヨコヤマトラカミキリ
22. V.'77.
5. *Strangalia (Idiostrangalia) contracta* BATES ミヤマホソハナカミキリ
6. VII.'75; 27. VI.'78. (三宅宗夫)

高鉢山 (鳥取県) のカミキリムシ追加報告 II

那 須 敏 (〒704 岡山市可知 4-23-4)

山 地 治 (〒700 岡山市幸町 9-9)

1977年まで続いた伐採も終わり土場も無くなったため材に集まるカミキリムシの採集は困難になった半面花や葉に目が行き今年も1976年、1977年の報告に次いで12種類の追加を見ましたのでここに報告します。今回は前報までに記録した種の中で新たに多数の記録を見たもの、新たな知見の得られたものおよび初報における誤りの訂正をさせていただきます。記録の提供をいただきました方々には御礼申し上げます。

- (注) 1. 学名の前の番号は前報からの続きとした。
 2. 両名の筆者が採集したものは採集者名を省いた。
 3. 学名の前の*印は「東中国山地自然環境調査報告」における鳥取県の当地域の目録に載っていない種である。

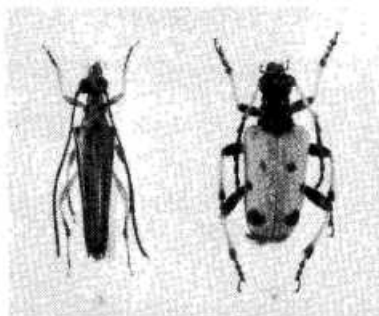
高鉢山産カミキリムシ目録 — 追加報告 II

157. **Evodinus bifasciatus japonicus* MATSUSHITA フタスジカタビロハナカミキリ
 2♂ 1♀, 13. V. 1978; 1 ex., 14. V. 1978, 金田採。
 いずれもヤマシャクヤク花上より採集。
158. **Eustrangalis distenoides* BATES カエデノヘリグロハナカミキリ。
 2♂, 5. V. 1978, 福田・竹内採。カエデ花上; 4♂, 14. V. 1978, コハウチワ
 カエデ花上; 1♀, 21. V. 1978, 福田採。ミズキ花上
159. **Stenhomalus lighti* GRESSITT トワダムモンメダカカミキリ
 1 ex., 13. V. 1978, ミズキ葉裏。
160. **Molorchus nitidus* OBIKA ホソツヤヒゲナゴコバネカミキリ
 1♂, 13. V. 1978, カエデ花上。
161. **Merionoeda hirsuta* (MITONO) スネケブカヒロコバネカミキリ
 1♂, 16. VII. 1977, アカメガシワ花上; 1 ex., 22. VII. 1978, 岡崎採。リョウブ花
 上。
162. **Xylotrechus pyrrhoderus* BATES ブドウトラカミキリ
 2 exs., 12. VIII. 1978, 分島採。ブドウ枯ヅル上。
163. *Epiclytus yokoyamai* (KANO) ヨコヤマトラカミキリ
 1 ex., 13. V. 1978, コハウチワカエデ花上。
164. *Anaglyptus subfasciatus* PIC スギノアカネトラカミキリ

- 1 ♀, 14. V. 1978, 渡辺採. ミズキ花上.
165. *Purpuricenus temminckii* (GUÉRIN—MÈNEVILLE) ベニカミキリ
1 ♂, 1. VII. 1978, 金田採. 飛来; 1 ♂, 8. VII. 1978, 飛行中.
166. *Anoplophora malasiaca* (THOMSON) ゴマダラカミキリ
1 ♂, 12. VIII. 1978, ヤナギ樹幹上.
167. **Dolichoprosopus yokoyamai* (GRESSITT) ヨコヤマヒゲナガカミキリ
1 ♀, 14. VIII. 1978, 石井採. ブナ生木の根元.
168. *Paramenesia kasugensis* (SEKI et KOBAYASHI) カスガキモンカミキリ
1 ♀, 3. VI. 1978, チドリノキ葉上.

新たに得られた知見

5. *Encyclops olivacea* BATES テツイロハナカミキリ
many exs., 20. V. ~ 3. VI. 1978.
1976年に2頭しか採集されなかったが今年カエデ・ミズキ・ウラジロノキ・ハクウンボクの花上で非常に多数の個体が見られた.
30. *Eustrangalis anticereductus* HAYASHI クロサワヘリグロハナカミキリ
2 exs., 28. V. 1978, ハクウンボクの花の回りを飛びまわっているものを採集・初報においてウツギに似た白色の花としたのもハクウンボクであった.
43. *Necydalis odai* HAYASHI ヒゲシロホンコバナカミキリ
3 ♀, 2. VII. 1978, 岡崎・福田・山下採; 1 ♀, 7. VII. 1978, 福田採. いずれも飛行中のものであるがこのように多く得られることは珍しい. 採集された付近にはミズナラが認められると言う.
46. *Oblium longicorne* BATES ヒゲナガアメイロカミキリ
6 exs., 3. VI. 1978; 4 exs., 10. VI. 1978. ゴトウヅルの花や葉をすくって得られたのが5頭. ゴトウヅル葉裏に静止していたもの2頭. 付近のチドリノキ葉裏に静止していたもの3頭, 両日ともに天候はあまり良くなく採集されたのは午後3時から5時の間であった.
56. *Xylotrechus yanoi* GRESSITT ヤノトラカミキリ
many exs., 9. VIII. 1977; many exs., 16. VII. ~ 13. VIII. 1978.



左 カエデノヘリグロハナカミキリ
右 フタスジカタビロハナカミキリ

上記個体はいずれも1本のエゾエノキ大木より得られた. 直径約1.2mの幹や30cmほどの枝上をはっているものや交尾中のものなど見られた. 枝先にはカブトムシが数10頭飛びかかっており異様な雰囲気である.

104. *Nanohammus rufescens* BATES クリイロシラホシカミキリ

初報において採集日が10. VI. '76となっているが, 13. VI. '76の誤りでした. 慎しんで訂正させていただきます.

ニジュウヤホシテントウと 国語辞典の怪？

安江 安宣

数年まえのある休日のひるさがり、べつに昼寝用の枕にするためでもなかったが、ふと手元にあった広辞苑第二版をとりだし、みるともなく、つい職業がらニジュウヤホシテントウの項をひもどいてみた。まず、その記載をここに引用しよう。

にじゅうやほし・てんとう〔二十八星瓢虫〕テントウムシの一種、体長約6ミリメートル、翅は赤褐色でやや軟かく、軟毛を密生、大小二八の黒紋がある。幼虫はとげが多く、成虫とともにナス科植物を食害し、またウイルス病を伝播する。本州以南に広く分布、北方には類似の別種オオニジュウヤホシテントウが分布する。テントウムシダマシ。

…岩波書店『広辞苑』第2版第7刷、昭和48年刊。

上にかかげた文中の「…またウイルス病を伝播する」という記述が筆者にとっては初耳だったので、のんきにねころんではおられなくなった。念のため『広辞苑』第1版を図書館でしらべてきたので、参考のためここに併記する。

にじゅうやほし・てんとう〔二十八星瓢虫〕鞘翅目（しょうしもく）てんとうむし科の小昆虫。体長約6ミリメートル、翅は赤褐色でやや軟かく、軟毛を密生。大小二八の黒紋がある。幼虫は刺が多く、成虫とともに、ナス科植物を食害し、またヴァイラス病を伝播する。本州以南に広く分布、北方には、類似の別種オオニジュウヤホシテントウが分布する。和名ニジュウヤホシテントウ、別称てんとうむしだまし。

…岩波書店『広辞苑』第1版第3刷、昭和30年刊。

つまり本種がウイルス病を媒介するという点については1、2版ともほぼ同様の記載をおこなっていることがわかった。ナス科植物のウイルス病については有名なタバコモザイク病をはじめ、ナス、トマト、ジャガイモでも知られており、単純な接触感染のほかはウイルス病の媒介昆虫としては従来アブラムシ、カメムシ、カイガラムシなどが報告されている。したがってマダラテントウ類がナス科植物のウイルス病を伝播するという事実は今日まで学界未報告の事実であり、内外の病理昆虫学専門書中にも見当らず、念のため当研究所植物病理学研究室のウイルス専門家にも調べてもらったが、見解は否定的であった。

とすればニジュウヤホシテントウがナス科植物のウイルス病を媒介するという記載は上に引用した『広辞苑』第1版が之に関する原著ということになる。このついでに県立図書館に向いて他の国語辞典について当たってみると、『角川国語辞典』初版、昭和48年中版もおなじである。

そこで甚だお節介な行為だとはおもったが、岩波書店広辞苑編集部に対し上記事項記載をなすに当たっての根拠となる原典資料を明示してくれるよう参考文献をそえて申し入れた。

(昭和49年4月19日付)。さすがわが国一流の出版社だけに1か月もたたないうちに折り返し下記の如き回答が戻ってきた。

『…早速御示教にもとづいて改めて調べましたところ、全く御指摘の通りであることがわかりました。誤りの源は昭和30年刊の本辞典第1版から引き継がれてしまっているもので、原稿の執筆及び校訂の責任者も、今となりましてはよくわかりませんが、第2版を編集いたしますとき、当然チェックされるべき点がなされておらず、このたびの御指摘によって初めて誤りを知りました…御示教に副って、できるだけ速やかに訂正を施したいと存じております。』(昭和49年5月9日付)。

ごらんのように誠に真摯な岩波編集部の処置に感服しつつ2年8か月たった昭和51年の暮れちかく新聞には広辞苑第2版補訂版の広告が大きく掲載された。筆者はまえの一件を想いだしながら当該事項がどのように訂正されているのだろうか多少気になっていた。その年の12月上旬街の本屋の店頭にてた補訂版を立ち読みしながら、筆者は心外な気持ちになってしまった。いまここに当該部分を引用するが日本昆虫学会エビラクナ懇談会の諸兄の御判断をまつことにする。

にじゅうやほし・てんとう〔二十八星瓢虫〕テントウムシの一種。体長約6ミリメートル、翅は赤褐色でやや軟く、軟毛を密生、大小二八の黒紋がある。幼虫はとげが多く、成虫とともにナス科植物を食害する。関東以南に広く分布、東北地方以南に広く分布する類似の別種オオニジュウヤホシテントウと共にテントウムシダマシとも呼ぶ。
…岩波書店『広辞苑』第2版補訂版第1刷。昭和51年刊。

なるほど今度の補訂版ではくだんのウィルス病伝播云々のぬれ衣は削除してあるが、また新しくオオニジュウヤホシテントウが『東北地方以南に広く分布する…』という大ミスをしてる。筆者はここで辞典編集部を責める意図はまったくない。要は多項目にわたる辞典作製の想像を絶する困難さと専門事項記述の慎重性を痛感するのみである。

参考のため2、3他の国語辞典にのっているニジュウヤホシテントウの項を比較してみたが、夫々特色があつて興味深い。因みに著者署名入りの百科事典などはその記載は夫々の専門家が担当されているので、さすがに完璧といえる。

なお、岩波書店編集部へ右の件再訂正方の申入れは今日まで未だしていない。なんとしなくても今度は筆が重いのである。

倉敷市でイシガケチョウを目撃

1978年6月10日午後2時ごろ、倉敷市児島味野の小原池付近で、イシガケチョウ1頭を目撃したのでここに報告しておく。

現地は小原池よりさらに奥まったところにある小さな池のほとりで、おりから満開とあつて芳香をただよわせているネジキの花に飛来したもの。

本種にお目にかかれたのは、四国での1955年の経験以来のことで、何とか入手したいと、久々に高まる気持ちをおさえて、足もとを確かめた、そのわずかな時間に見失ってしまった。その後、今回の目撃が契機となり、難波通孝氏らの精力的な調査によって、そこから北へ2～3kmの位置にある稗田付近で次々と記録されるようになった。(近藤光宏)

出版物分譲案内

岡山県の昆虫 (1978) B 5、146 pp. 会員800円、一般1,000円、送料160円

すずむし、バックナンバー

巻号	各号分冊価格	巻号	各号分冊価格
16 (2・3・4 合併号)	1,000円 (〒200円)	106号	600円 (〒140円)
17 (1, 2)	500円 (〒140円)	107号	400円 (〒100円)
18 (1, 2)	500円 (〒140円)	108~114号	1,000円 (108, 114
19 (1・2 合併号)	1,000円 (〒140円)	…〒200円, 109~113…〒140円)	

申込みは送料をそえて、前金 (現金, 振替, 小為替) で本会事務所へ

倉敷昆虫同好会顧問

石原 保 先生
小泉 憲 治 先生
安江 安 宣 先生
佐藤 清 明 先生
杉山 章 平 先生
白水 隆 先生
重井 博 先生

倉敷昆虫同好会幹事

青野 孝 昭 ・ 宇野 弘 之 ・ 近藤 光 宏 ・ 中村 具 見
難波 通 孝 ・ 榎本 精 二 ・ 三宅 宗 夫 ・ 脇本 浩

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 TEL (22) 3655

第 115 号 目 次

難波通孝	岡山県のイシガケチョウについて	1
山地治	鳥取県のカミキリムシ数種	13
分島徹人・山地治	ケブカマルクビカミキリの越冬態について	14
難波通孝	岡山県産蝶類に関する知見	15
山地治	岡山県より採集した甲虫類	25
三宅宗夫	川上郡穴門山のカミキリムシ	30
那須敏・山地治	高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告Ⅱ	31
安江安宣	ニジュウヤホシテントウと国語辞典の怪?	33

おとしぶみ (短報)

尾埜順三	久米南町でナガサキアゲハ	13
山地治	キボシチビカミキリの記録	14
近藤光宏	チシャノキクキバチを四国で初記録	24
近藤光宏	高梁市のダイコクコガネ	24
近藤光宏	倉敷市でイシガケチョウを目撃	34

す ず む し No. 115, December 20, 1978

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町(倉敷昆虫館内)〒710
振替口座 岡山6927

本部(倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学大原農業生物研究所内)

印刷所 サンコー印刷株式会社
岡山県総社市駅前2丁目13-5
